

報學學大西哥

行發日五十月九 號二十二百第 年九和昭

目次

| | | |
|-----------------------|-----------|------|
| 廣告術の變遷…………… | 江馬 務…………… | (三) |
| 滿洲看聞記…………… | 河村信一…………… | (八) |
| 海外學界消息…………… | | (三) |
| シユバン教授とフアツシズム(赤羽) | | |
| 丁抹國際法學界の近業(越智) | | |
| 學内報…………… | | (一八) |
| 第二學期始業—專門部補缺入學—語學講習會— | | |
| 學内消息—住所移動—訃報 | | |
| 校友…………… | | (一八) |
| 大三會—朝鮮支部—尙文會—動靜—住所移動— | | |
| 改姓名 | | |
| 校友のプロフィール、島海青兒君…………… | | (二) |
| 學會消息…………… | | (三) |
| 國文學會—法學研究會—計理クラブ | | |
| スポーツ關大…………… | 橘 生…………… | (三) |
| 學生欄…………… | | (七) |
| 新刊紹介…………… | 新町徳之…………… | (九) |
| 就職に關する心得…………… | | (一〇) |

關西大學五十周年式典準備委員會

關西大學學會發行

關西大學 研究論集

創刊號

(昭和九年十月一日發行)

| | | |
|----------------------------|------|-------|
| 王道の意義を檢討して皇道の法理的考察に及ぶ…………… | 法學博士 | 仁保龜松 |
| 社會學及び社會學論の體系形態…………… | 教授 | 岩崎卯一 |
| 權力の構造…………… | 教授 | 大山彦一 |
| 都市計畫…………… | 教授 | 森下政一 |
| 特別市制論…………… | 教授 | 中谷敬壽 |
| カントの歴史哲學…………… | 教授 | 片山正直 |
| 平均値論…………… | 教授 | 河村信一 |
| 貨幣的景氣變動論…………… | 商學博士 | 武田鼎一 |
| 連鎖店組織に就て…………… | 教授 | 加藤金次郎 |
| ロシア東方政策の地政學的吟味…………… | 教授 | 中村良之助 |
| ハーデイと婦人問題…………… | 教授 | 内多精一 |
| ウォルト・ホキットマンの詩…………… | 教授 | 田邊清市 |
| 特に“Song of Mysely”に就て…………… | | |

年二回發行
定價壹圓

大阪長柄通關西大學前
 振替大阪二五〇番
 東京向島寺島三町ノ三七番
 振替東京七三二番

發賣所 甲文堂書店

廣告術の變遷

講師 江馬 務

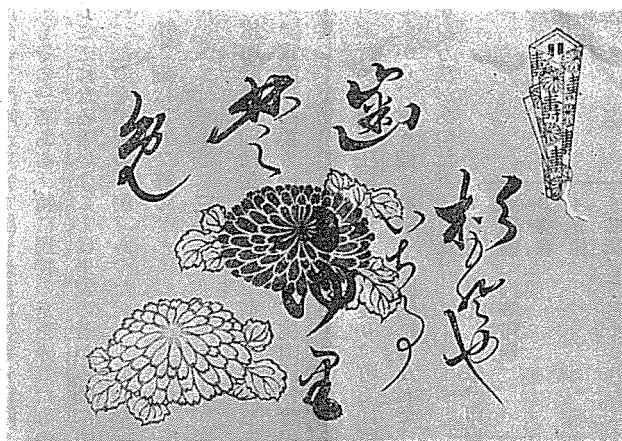
本誌に何か書けと編者よりの唐突の懇願、文學の方面の記事が従来一つも出なかつたので、文學に關する記事は掲載されぬものと考へてゐた私は一寸面喰つた。併し何等そんな制度はないのだと聞いて安心し私専門の風俗史に關することで、精々法・經にも参考なる記事を今後、時々御厄介になることとする。これもその片影に過ぎない。

一人でも多くの眼に訴へ耳に聽かせて宣傳したいといふ必要は、いくら古代にでも幾らもあつたに相違はない。併し文字のなかつた古代には口づから傳へるより致方もなく、假令漢字が渡來した後と雖も、道路は不完全で、交通機關が不備な古代には、宣傳しようにも、施すべき術がなかつた。纔かに人を遣し馬の背を藉つて傳へたに過ぎなかつたのである。大化の新政が布かれて驛馬傳馬の便が開け、政令一とたび出づれば、率土の濱に達し得るまでには、なりはなつたが、その便益を利用したのは僅かに中央の政令のみであつた。飛鳥時代には危急を報ずるに烽火の設備があつて、山上に火を燒き烟を天涯に靡かせて十里の遠きに傳へかくして順次に遠距離に及ぼすのであるが、これこそ宣傳の急先鋒の一であつた。大化頃になると宣傳に金石を以てするものも漸く増加して來た。かの宇治橋の碑は即ち其遺物の一で、表面に沙門道登が人馬流亡を救ふが爲め、仁義を以て橋を架したと刻されて、一千三百年の今日なほその宣傳の効を全くしてゐる。奈良朝に至つても僧侶は自ら繻衣を纏つて旅裝を整へ國々の山河を跋涉して道路を修し堤を築き橋梁を架し池を穿つて徳を施し、陰に佛教を宣布したものであるが、

かく自ら行脚の勞苦を管めずして、寺院を建立し法會を營み講讀を開き、遠近の善男善女を集めて、法門の擴張を計つたなども巧妙な宣傳であつた。奈良朝には始めて木版印刷が始つたが、これも廣告に利用するまで進んでゐなかつた。何れにしても平安朝以前は僧侶の宣傳以外に、宣傳らしい宣傳はなかつた。以上を第一期とする。

二

廣告の必要を認むると共に宣傳も巧妙になつたのは、平安朝から室町時代の終までである。諸國の交通は街道筋の改善につれて便利となつたものゝ、その交通は徒歩に依らずんば馬か船を俟たねばならなかつたし、その往還の途次、日西天



第一圖 引札 宇治山遊の女齒黒成露 (自綴)

に没しては松の下露に濡れて草枕の夢を有様だつたから、遠路の旅の辛苦艱難は豫想外で、従つて遠き地方への宣傳は、容易に出來難い時代であつた。併し前代と異り、宣傳は効果を生むことは確實であつたので、文字はいろいろの宣傳に用ゐられた。店頭には看板を掲げることが、東西市より始り、延喜式書札によりて宣傳の方法が大に開けて來た。人の多く通行する所を目あてに、書札を立て貼ることも此の時代から漸く行は



第二圖 象の世物見の廣告一板の自載

れて来た
 葵祭の日
 難闇で祭
 禮を見ら
 れない所
 から立札
 を立て、
 人を退け
 氣樂に見
 た老翁も
 ある。

十訓抄かの鐘銘に己の筆跡を残すなどは最も宣傳として効果のあるもので現品と音響とによりて己を宣傳することとなる。高尾の三絶の鐘は藤原敏行の名を永遠に留めてゐるのも此の方法の有力なりしことを證して餘りがあり、又繪畫を以て宣傳した例もあつて、各寺院に藏せらるゝ繪卷物などの中には、此の種の目的のものも相當ある。一遍上人繪傳などは明かに遊行宗の宣傳と見れば見らるゝもので、それでこそ一遍上人繪傳の数は極めて多く同宗の寺院に多數に保管されてゐる。その他書籍の著述などの方法もあるが、中古はすべて宣傳といふ方は極めて冷贈で、如何なる大畫大著にもその作者の名を知られぬものもある位であるから他は推して知るべしである。

此の時代には店といふものもたゞ眞に小規模のもので、窓を開いて、そこに小さい水平の臺を取りつけ、商品を並べたに過ぎない。年中行事繪卷展觀といふことは、市場では行はれてゐたが、一遍上人繪卷 人々の好奇心を唆つて宣傳することが最も有力であつた。それには假裝その他の方法を用ふることで、かの千秋萬

歳といふ門附が鳥兜で出て來ることも、宣傳としてよく利いてゐるし、祭禮の假裝もその一である。特に獨特の奇を弄したものは、尊重されて永く命脈を維持することになるといふことは平安の昔から既に由緒づけられてゐる。筑摩鍋冠祭が残つたのも、その一例であつた。

第二期はこれで終る。

三

室町時代以前は生活も簡易で競争も緩慢であり、人に利己觀念が乏しかつた爲め、宣傳の必要も少なかつたが、桃山江戸時代からは、その俄然として生存競争が甚しくなり、従つて宣傳が必要となつた。法令などは高札として或は觸書として町奉行から或は庄屋から下々へ渡り、町では町内の年寄が一町中へ會所で申し渡したから、津々浦々までも徹底的に普及した。併し一商店一箇人の宣傳となると左の方法があつた。

第一類 直接廣告

- 1 書面、引札（肉筆、印刷）
 - 2 繪畫（肉筆印刷）
 - 3 書籍
 - 4 立札
 - 5 貼紙
 - 6 看板、暖簾
 - 7 照明
 - 8 神佛奉納
 - 9 印半天その他衣服
 - 10 旗幟その他
 - 11 店頭裝飾
 - 12 廣告人
- 1 人をして五感に快美を感じしめて廣告する類
- 2 奇抜な所業を營み廣告する類
- 3 人に物品を與へて廣告する類
- 4 名士の手を藉り廣告する類

第二類 間接廣告

と、これだけある。今左にその實例を記さう。

1 書面引札とは元祿頃にあつたことで、明和六年に蛭子屋吾助が自家製の齒磨嗽石香の廣告文を平賀源内に作つて貰ひ印刷して頒布したなどこれで、遊女などの齒黒の引札などを始め、今日「ちらし」といふ類は皆之に屬するのである。

2 繪畫を用ゐるもので引札よりも稍効果があらう。私は天保頃の大家の見世物の廣告を所有してゐるが、これなどは正にその一例である。上に大津繪ぶしがあつて、引札の體裁である。

3 書籍によつて廣告する例は、かの京傳や三馬が、自分の著書に自家の商品の廣告文を巻末に挿入せし如きその一例で、京傳は浮世繪も巧であつた爲め、繪に描いて自家の烟管を賣出し、三馬は小説の中に巧にその廣告文を挿入してゐる。

「あの延壽丹は私の曾祖父の時分から名高い薬でございますのさ、あれは一丁目でございましてつけ、私も暑寒にはたべますのさ」。ハイ只今は二丁目式亭(三馬自身のこと)で賣ります。「エ、何かネこの頃はやる江戸の水とやら白粉のよくなる薬を出す内でございますせう。「ハイさやうでございます。私どもの娘なども江戸の水がよいと申て、化粧の毎につけますのさ。なる程ネ、顔の出来ものなどもなほりまし



傳宣のるせきの傳京東山 圖三第

て、白粉のうつりが奇麗でようございます」

自家宣傳のうまいこと、實に堂に入つたものである。

4 立札、高札 この時代には簡人のはない。切支丹禁制、ばてれん訴人の褒美の札、獄門の首の主の罪狀、などは左の形式の高札を出したものである。

嶋田左兵衛

戊ノ三拾九歳

此島田左兵衛權大尉事長野主膳
卜同服致不倡姦曲相巧天地不容
之姦賊也依而加誅戮令梟首者也

戊ノ七月

これは文久二年七月廿日夜京都木屋町二條下で某坊にありしを有志の鞞斬首、四條河原へ梟首した高札であつた。

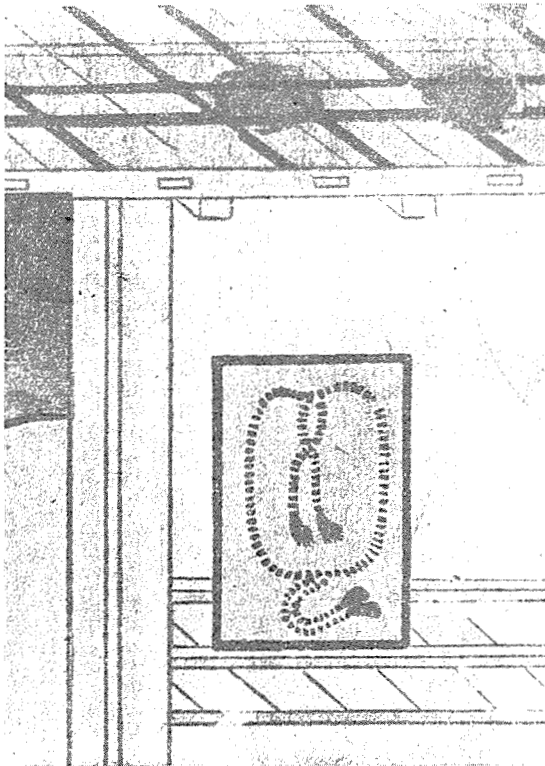
5 張紙 これは文書の紙を貼布して宣傳するもので、看板などと同じく、門外に「手跡指南うつしもの」は習字の先生、筆耕の看板、かの千社札といふは寶曆頃から起り、天恩孔平といふ男がその張本人であつた。信仰に事よせて、賣名の用に供したものである。此花 寛文十一年の攝津芥川の復讐の逸話に早川八之丞が松下源左衛門を殺した時に、自己の下手人なることを證明する爲め、その死體の横つてゐる横の壁にその顛末を記して逐電したなどは、如何にも武士らしい所業であつた。近世畸人傳

6 暖簾看板、暖簾は早く平安朝に見え、南北朝頃は丈が長くなつてゐるが、室町時代に入つて定紋をつけることになり、宣傳に用ひられて來た。江戸時代には、何々商何某といふやうな名や、商標を入れた。又水引暖簾は江戸時代初期の産物で、これにも商標、屋號名を白抜とした。看板は桃山時代から始つた。喜多院職人誌 その頃は實物を軒下にしたので珠數屋は珠數を下げるなどこれである。江戸時代になつては商品を象つた看板が出来た。それに三つあつて、一は板に繪を描き浮彫刷色とするもの、一はそれと同様で擴大した形のものを作るもの、三は全然別のものを作つて、それを別に暗示するものと三つあつた。看板については改めて別に私の考証を有してゐるが、一は櫛屋に大櫛、させる屋に烟管

浮彫がある類、二はこんべと屋にコンベトの看板の類、三は饅頭屋に馬の人形、これは「あらうまや」(荒馬や)白粉屋に白鷺を描いた山形、表具屋の達磨は掛軸が禪宗より始りしより祖師達磨を表具師に出すのである、なほ看板には文字の看板が別にある。又幟旗幕もその目的遂行に屈強のものである。

7 照明具 これは夜間の宣傳に供する爲めに設備するもので料理屋の掛行燈茶屋の聖行燈、納涼床商店の豪行燈などこれで、中には行燈提灯を商品の形に象るもある。別して萬燈などいふものとなると、大袈裟な宣傳に用ゐられる。

8 神佛奉納 手水鉢、燈籠、玉垣、鳥居、賽銭箱などを始め手拭に至るまで奉納者の名を麗々と書かして、宣傳に利用するので、繪馬などを利用することもある、京都清水寺の角倉末吉船の繪馬は全國繪馬中の白眉である。



第四回 珠敷の看板、喜多院職人のつくし書抄出

9 印半天法被その他 衣服によりて宣傳せんとする方法は江戸時代中期からある。尤も戦國時代には具足旗差物等を別製として、自己の存在を遠方より知らしめるような方法を用ゐたが、江戸時代には印半天法被によりて宣傳する爲め、雇人出入の入夫に自己の定紋、名を入れた印半天法被を着せしめ宣傳することがあつた。火事羽織なども亦その宣傳になる。

10 旗幟持物による宣傳 戦國時代には馬表差物などがあるが江戸時代には大名の鎧、消防の纏もあり、又旗幟を使用することも多い。開帳興行などに之を利用することは今も猶ほ盛である。

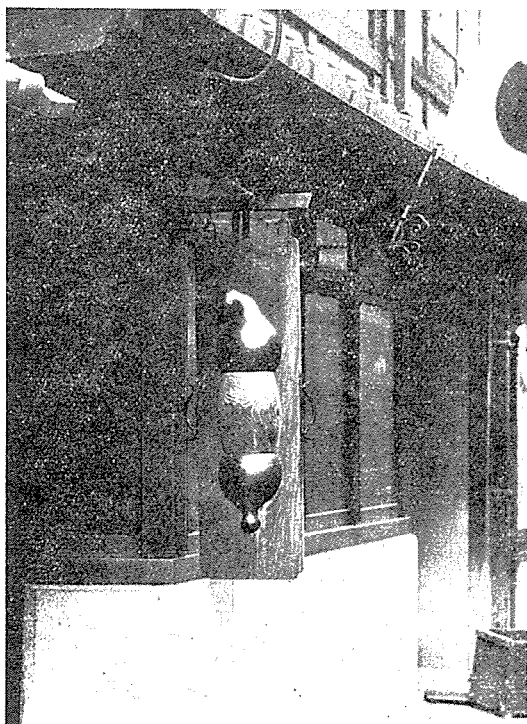
11 店頭裝飾 店の古式なのは前期に述べたが、桃山時代には店頭を開放して一堂に商品を出積し、直ちに各種商品を示し得ることゝした。所謂「見世の間」が起つた次第である。

12 廣告人 東西屋といふ職業が天保頃から出来、拍子木を打つて賃を貰つて一商店を宣傳することゝなつた。

以上は第一類のものであるが、次に第二類のものを左に記す。

1 人の五感に快感を與へ同時に宣傳せんとする方法は、昔でも一歩進んだ宣傳方法であつた。例へば齋藤拙堂が月ヶ瀬、山陽が耶馬溪の宣傳を漢文でやつたのも一の方法であるが、大阪の富豪桑名屋九郎兵衛が愛妓茨木屋の政太夫に牡丹の打掛を作り、その牡丹に配するに黄金で獅子の目貫を多数縫付させたなどは至つた宣傳である。

2 奇抜なことを好む人情の機微を捉へて宣傳するも一の巧妙な宣傳に相違はない。京室町の櫻木勘十郎といふ人は衣服、帯、足袋何でも全部横縞として自己を宣傳し、今宮心中に男女が松の木に懸鯛の如くなつて縊死したので有名となり奇抜な心中を唆つた。文久年間江戸本町いわしや總本家の主人は赤頭巾に赤天鵲絨の巾着をつけて外出し、荷造は夜高張をつけてやつたなども一つの方法に相違



第五圖 昔のせきのる看板

はない。

3 人に物を興へることは意外に大なる宣傳となるものである。初代片岡仁左衛門が節分に鶴を料理して、その羽の處置に困り、簪にして近所の娘に興へたことから役者の人氣ある江戸末葉に大人氣を博し、遂に節分には門前市をなすこととなり、鶴の料理も年中行事になつた。

4 名士の手を藉り宣傳する方法も昔から多い。小田原賣藥屋虎屋藤右衛門の透珍香(外郎)賣を市川團十郎に演ぜさせたのも一法で、江戸三十間堀二丁目の和泉屋勘助は號を太申といったが、太申の字を衣服に染めさせ、俳優中村傳九郎に着せさせ宣傳したなどは即ち此の手であつた。以上は江戸時代の廣告法である

四

明治になつてからの廣告は改めて記述したいが、いふまでもなく汽車、汽船、

電車、電信、郵便、新聞紙、雑誌などが續々出來て宣傳に便利な時代となり、就中新聞の廣告は最も有力なものとなつた。慶應三年の「萬國紙」には賣藥、賣船、せり賣、雇人、馬具、舶來品、食物、牛肉、機械の廣告があつて、新聞の廣告は既に明治以前から始つてゐる。慶應四年の中外紙には一行一朱の廣告料で、廣告の取次には明治十九年弘執社、三成社が出來たのが嚆矢である。新しい廣告として立看板、電氣照明、器物廣告、ポスターなどがあるが、廣告塔は先年燒失した淺草十二階が最初のものである。かの岩谷松平氏は赤い洋服に赤馬車に乗り朱塗の工場を建て天狗烟草を宣傳したのは、今でも反つて珍しい宣傳方法であるが守田資丹が人を雇ひ盛夏に大道に倒れさせ、折ふし自分が資丹を出して飲ませ氣付としたのは、あとからインチキが暴露して今もなほ廣告劇として一挿話となつてゐる、この廣告については目下日進月歩の状態であるから、改めて考現學によりて研究すれば大に興味があらうが、これは後日に譲つて、今日は以上に止めておく。

西 洋 御 時 計

京都寺町御池上

荒池堂

出版豫約廣告

滋賀縣收稅屬野津捨吉校閱
恒川嘉三郎編輯

會 席

御 銘

濃茶之
富士の頂
初昔
後昔
傳茶之

第六圖 明治初年の新聞廣告 (日出新聞時計尾)



滿洲看聞記

教授 河村 信 一

滿洲へ行つて來ました。行つたが最後何か見たり聞いたり或は感じたりしたであらう、それを書けと云はれますが、何と云つても一ヶ月程の間に約四千キロの鐵道を乗り廻し主要都市十五程を巡つたのでありますから全くの飛脚旅行です。

せなければならぬ見物やら訪問よりも食ふ事と眠る事が先づさきになるといふ有様、人間の野獸性を發揮すると云はれても辯解の仕様もありません。然し見ては來ました。二つの眼と二つの眼鏡玉には光學の原則に依て滿洲の森羅萬象、新興の滿洲も舊態の街路も、人も馬も草も石も映じました。聞いても來ました。二つの耳があいてゐる以上音學の法則に依て高低大小各種の音波は遠慮なしに這入つて來ました。滿洲人のかん高な叫聲、遠慮する様な物賣りの聲、戰跡の叢の中から哀音を傳へる虫の聲、停車場の汽車の鐘、果無しの荒野を行く驢馬の聲、さまざまのものを聞きました。日系官吏の自慢も日本商人の不平も耳に響きました。然し見たり聞いたりした事は夢まぼろしの様に利那的に消散して仕舞ひますが現實に後まで残つて、かつちりと滿洲を思ひ出させるものがあります。何かと云ふと顔色が所謂滿洲色になつた事とからだが滿洲臭くなつた事です。歸つたら家庭の圓満を缺くなんて冷かされましたが、此の滿洲焼けと滿洲臭とは滿洲旅行の最も貴重な御土産でしょう。然し歸つて半月もするかしなに、餘程元へ復して來ました。どうしても日本へ歸ると山紫水明の空氣の爲めに、色も臭もさまざまに仕舞ひ勝です。それと同時に滿洲に居て見聞して得た感じが變るといけません

から、色のさめない内に早く書きとめて置くとしましよう。然し何しろ短時日内の視察と之に基いての感想ですから間違も多からうと思ひます。其點は御許しを願ひますと同時に御教を願ひます。

二

元來今回の旅行は、至誠會の年中行事である滿洲産業建設學徒研究團の一員としての旅行でありました。同團旅行の目的は規定書には六つかしい事が書いてありますが、要するに青年學徒をして正しい滿洲の認識を得させる爲めであります。従て各學校の配屬將校と各學校各専門の教授とが計畫指導引率監督の任にあたり全國の大學高等専門學校から模範學生（學問、身體、思想等について）を撰抜して一團を作り上げたのであります。本校からも合計六名の學生諸君が參加しました。滿洲の正しい認識を各専門學の立場から求めようと云ふので農醫理工法經商各部門に亘る各種の見學があり、講演があり、或は座談會に、或は訪問に引つぱり廻され、疲れきつた身體に鞭打つて町から町へと行つたものです。學生もあらゆるでしようが教授連も中々忙しかつたのです。忙しい内から何かしら握まうとする智識慾の盛んな學生達の熱心には教授連の方が反つて胃をぬぐと云ふ有様でした。頼もしいのは我等の後繼者であります。將校連は又各地に於ける忠靈塔の參拜や、日清、日露さては滿洲事變に於ける戰跡の見學及び講演を熱心に計畫されました。全員は參加して我等の先輩同胞の苦心を偲び其英魂を弔ひました。なんと忙しい旅ではありませんか。感想も思索も何もかも蒸發して仕舞つて唯もう茫然の體です。然し日が暮れて夜になると冷しいのと入浴夕食の爲めに元氣恢復して議論も出れば日記もつける、ことに夜の町の散步や買物は盛んなものです。此時は晝と全く見違へる元氣です。或人には南洋の蛇だと譚辭を奉つた位です。何故かと云ふと南洋の蛇は晝間はグツタリとして元氣がありませんが、夜になると元氣が出て鎌首をあげて餌物をあさりに森の間を活潑に歩くからださうです。

今回の旅行の最も大なる目的の一であると思はれます忠霊塔の参拜は實に嚴肅なものであります。隊伍整々行軍の形式で城内に入り塔前に整列し最敬礼をしました。滿洲を現在の状態に作り上げた功勞者として此等忠霊塔に鎮りませる英靈に對し最大級の尊敬と慰靈をなすべきは我々の重要な務めでありましょう。而して我々は其忠霊塔に親しく御まゐりして當時を偲びながら諸勇士の血の滴りに由て染められた此の滿洲の地の將來に就いて大いに考へさせられたものであります。

忠霊塔は處に依つて納骨祠とも云つてゐますが之は其形状の相違に依る名稱で根本に於いては英靈の祭祀所で同一のものであります。現在滿洲各地に於ける之れ等の忠霊塔及納骨祠の位置は五ヶ所で次の各處であります。

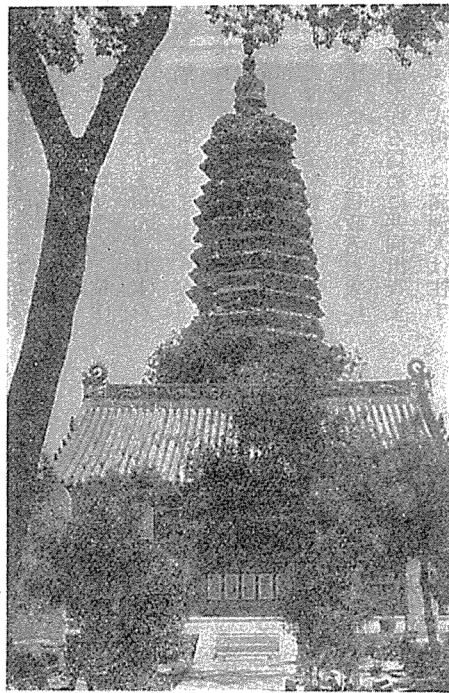
- 名 稱 合祀者參加戰 合祀者數
- 白玉山納骨祠 旅順要塞戰 二一、一七九
- 大連忠霊塔 柳嶺蓋平を含む
以南滿洲莊河を含む
以西開 六、〇二九

遼陽納骨祠 本溪湖煙臺打虎山阜新を含む
以南 一四、三六四

奉天忠霊塔 本溪湖を含む
煙臺打虎山阜新を含む
以北全部 三五、〇三八

安東納骨祠 輯安本溪湖を含む
以南滿洲莊河を含む
以東間 三一、二二九

右の各塔祠には滿洲事變の忠死者をも合祀する準備中であります。尙此外目下建設中のものはチ、ハル、新京、ハルビン、承德の四ヶ所之れ等は主として其地方に於ける滿洲事變忠死者を合祀する事になつてゐます。



鐵嶺城内に聳立せる白塔寺の古塔

戦死された忠烈の士を弔ふならば、之と同時に現在銃を手にして日夜不怠の守備をして居られる我が勇士を慰問しなければなりません。あちらこちらの守備隊を訪問して雜誌手拭等を寄贈して我々の敬意を掬んでもらいました。守備隊の將士は廣く北滿の野、深い東滿の山、そこに出沒常ならざる匪賊の討伐に毎日出かけてゐるのであります。然も水は悪く氣候は悪く物資は不足であります。我々がハルビンから新しく出来た拉賓線で南下してゐた時、夕方でした。

討伐から歸つて来た四五十人の一隊が我々の汽車へ乗つて来ました。昨日の晩から今迄山を駆け廻つてやつと追ひ散らしたのであるが辨當を持つて來なかつたので朝食も晝食も無い水も飲まない」と云ひました。實に氣の毒な話なので之を聞いた我々は晝餐當のパンの剩つたのや、キャラメルや何やを集めて之でも食べて下さいとすゝめました。大切な水筒の水をさアとすゝめました。こんな些かの事でも勇士の心を慰め得たらと一生懸命でした。兵力も不足な様です。吉林で或軍人が云はれました。吉林の南の朝鮮人の共産匪を討伐する事は急務であるが今の兵力では唯出て來たのを追ふ程度で中々全滅させる事は出来ない。然も一度討伐に出かけたら二三ヶ月は最緊張裏に密林を駆け廻り久々歸隊したと思ふと十日もたぬ中に又出掛けなければならぬ。こんな事をしてゐては兵馬共に疲勞してどうにもなりません。又「慰問品は一年の間一回も來ない」と云ふ事です。南滿へは相應行き渡るようですが、かんじんの第一戦に居る人々の事は世人からも忘れられて居ると云ふ有様です。むつかしい三位一体とか二位一体とかの問題や軍事費

問題を論ずるのもよろしいが、邊境に在る守備隊の事を忘れない様にすべきであると大に感じました。

五

今度は目を轉じて滿洲の道路を見ましよう。大連奉天新京などの重要都市の重要道路はりつばな舗装道路です。雨が降つても水がたまりません。自動車でも心地よく走れる道路です。然し一度横町へ這入るか、或は田舎の町へ行くと、さ大變です、でこぼこ、ぼこ／＼、雨が降つたら泥濘の悪路、天氣になると生乾きの處へ遠慮なしに車が通るので道を眞中に幾つもの細谷川が出来ます。それが天氣續きになると固りますから歩きにくい事つたらありません。車に乗つて通つてもガダンコトンとゆれどほして腹へらしには丁度良しいが、うっかりすると投げ出されそうです。乾燥すれば砂埃が立つてどうにもこうにもなりません。日本の田舎道の中には之れとくらべてあまり上等だとも云へ無い處もありましようが、内地の道は大抵修繕されてこんなでもありません。其上に下水道が不完全なので一層道はわるくなります。此の様な悪路は一日も早く改告すべきであると云ふので、其の改良を企てましたが、滿洲人は喜びませんそんな事に金を費ふより我々の金儲けの出来る様な方面に盡力してくれと云ふのです。こゝらが爲政者の大に氣を付けるべき事では無いでしょうか。ですから下水道を作る爲めに共同出資をするナンかは全く思ひもよらない事です。大新京のモダン式街へは滿洲人は住まないと云ふ事です。面白いではありませんか。面白いと云ふ外に滿洲人の心理状態を深く考ふべきではありませんか。

六

道の事を云ひますと其道の上を走つてゐる馬車の事を思ひ出します。交通機關の少ない滿洲では一般の交通機關としては洋車と馬車であります。自動車は道のいゝ處だけです。洋車は主な町だけで又数が少ない様です。馬車は田舎の町でも

必らずありますのでマア滿洲に於ける最普通なものと云へるでしょう。町へ出て「マチョー」と云ふと、どこからか馬車が現れて來ます。一疋又は二疋の小馬が小さな汚ない馬車を曳いて居ます。滿洲人が一人、車の前部へ乗つて馬を御します。客は後部の腰掛へ乗ります。二人は乗れます。若し夫れ以上乗る時は急造の腰掛を作つて尙二人は乗れます。即ち最大四人が乗れるわけです。快走々々と云ふと馬子は鞭をあてゝ馬を走らします。少し走ると又ノロ／＼と歩きます。馬も悪路には困る事でしょう。それでも快走々々です。語は通じなくても左右は手まねでわかります。數町走つても大抵五錢、余程走つても十錢です。新京停車場の横に大きく書出してある馬車代の表を見ると三錢四錢などよい處もある様です。滿洲に居た時は何とも思つてゐませんでした。朝鮮へ行つて馬車が無くなつてから、始めて馬車の有難味がわかつて來ました。夕暮の町を、すゞみながら馬車を走らす時の趣は一寸内地では味はれませんが、晝間なら、ひどい埃なんでしょうが夜ではそれが目立ちません。そよ／＼と風だけが、からだにあたつて、いゝ氣になります。此の馬車がある爲めに晝も夜もどんなにか都合がよい事でしょう。馬車屋は親方に馬と車の借賃を拂つても相當の收入になるそうで、これこそ眞實の共存共榮と云ふべきであります。

七

錦縣から鄭家屯、洮南、チ、ハルと北上する鐵道は蒙古の東隅に行くのです。入口ながら蒙古の氣分を味へます。沙丘も遠くに見えます。荒野の中に有る水たまりは天然曹達を含んでゐるのでは無いかとも思はれます。此の中の鄭家屯に興安軍官學校と云ふのがあります。日本の將校が蒙古の青年を教育してゐます。蒙古服をきて蒙古馬に乗つた將校が、軍服を着た十七八の蒙古青年の一隊を日本語で指揮して居ました。愉快ではありませんか。我々を歓迎する爲め其一隊が日本語の歌を歌つてくれました。勇壯活潑に手を振り足踏みした其姿が今でも目に

つきます。せめてもの思出に其の歌詞を次に記して置きます。

民族騷起の歌

- 一、成吉思汗は吾等が祖先
駒の蹄に天下取る
- 二、あゝその雄圖空しくなりぬ
いさやさめなん鐘がなる
- 三、立て立て奮へ佛のうから
吾等騷起の秋來る
- 四、捧げよ捧げん吾等の命
うからの天運廻り來ぬ
- 五、行け行け男兒蒙古の男兒
東亞の風雲日に早し

八

洮南近邊には石がありませんし大きな木もありませんから、家を作る材料は泥と草だけです。泥に草を混じて練つたものを柱とし壁としてゐます。屋根だけは高粱でふいて其上に泥をのせます。即ち全く泥の家です。雨があまり降りませんから之れで良しいが、今年のように洪水になりますと家が溶けて仕舞ます。家が溶けるなんて面白いではありませんか。それでも、つぶれた家のあとへ又泥の家を建て直してゐました。それで町も出来てゐます。

此邊の土地はアルカリ性ではありますが乾燥地なので作物にはあまり良くはありません。然し漢人に依て耕作されて大豆や包米や小麦が植えてある處もあります。元來蒙古人は喇嘛教の經典に基いて田畑を耕す事は勿論土を掘る事も罪惡としてゐます。従て廣漠なる此の地方は唯僅かに五萬人餘の漢人に依てところ／＼耕作されて居るだけです。日本の農業移民を此の邊にする計畫も立てられて居る様ですが未知數であります。其障害の一つとして次の様な事があります。この様な荒地に所有主は無いであらう。どこでも耕せと云ふわけには行か無いので、たとひ官廳の土地豪帳にはなくとも、又隣地との界が不明であつても、寸隙なしに誰かの所有地で勝手に、いぢる事は出来ない事になつて居るのです。いぢるとなると買はなければならず夫れが安くないのです。

九

ハルビンはずがに露西亞東漸の足溜りであつたゞけあつて町も奇麗で大きな家が並んでゐます。然し遺憾な事には看板が全部ロシア語です。hの裏返しになつた字やLの逆立見たいな字ばかりで、さつぱり讀めません。たまに漢字があれば滿洲語です。日本語は僅かに日本町で見られるだけです。滿洲國內でありながらロシア語の跋扈さは丁度ロシア人の跋扈さを思はれまして甚だ憤慨させられました。ロシア字が讀めない爲めではありません。馬車、自動車の車掌もロシア人でロシア語を使つてゐますので不便此上なしです。滿洲國でありながら滿洲語が使へないなんて甚だ不都合です。何とかならないものでしょうか。尙進んでは滿洲各地でもつと日本語を盛に使ふ様には出来ないうか。奉天あたりの滿洲商人はドン／＼日本語を稽古してゐるそうです。日本語を知らないと言客が出来ないので儲け主義から發足して勉強してゐるのだそうです。それでも良しい。日本語がもつと普及したら、どんなに愉快でしょう。然し中々それも行かないらしいです。これは爲政者の力でどうでもなる事と思ひますから、其筋でしつかり御たのみする外はありません。

日本婦人の滿洲進出とか、滿洲婦人との結婚とか、所謂日滿合作を唱へる人もありますが、此の方は官憲の力でどうもなりかねると思ひます。夫れよりも言語の改良の方が容易ではないでしょうか。

とは云ふものゝ滿洲語を全部日本語で置換へるのは理想案でありまして、それ迄の過渡時代に處する方法として我々の方が滿洲語なりロシア語なりを學ぶ事が必要であらうと思ひます。意志の疎通と云ふ事は國際上でも個人上でも必要な事である以上、郷に入つては郷に順ふ法則上からも、進出した我々が彼の國の語を知ると云ふ事が必要であります。現在に於ては滿洲語を知らないで滿洲で活躍しようなんて云ふのは大膽すぎる事と思ひます。若し北滿へ行くならロシア語も學

ぶべきです。朝鮮よりの地方へ行くなら朝鮮語も學ぶべきです。兎角過渡時代は困難の多い事を覺悟しなければなりません。

言語の事を云へば序に蒙古の電報の文字の事を云ひ添へて置きましょう。一種の音標文字を作つて之を使つてゐます。たしかに一新機軸を開いたものであります。將來此の文字が蒙古で一般に使はれる様になるのかとも思はれます。

十

滿洲各地で屢々目につくのは喇嘛教の高塔であります。殊に田舎の方の小さな町の低い家の間からヌーツと立つてる異様の塔を見た時には異域に居ると云ふ感じがヒシと來ますね。然も其塔と云ふやつが、くづれて荒れて僅かに昔の名残を留めて居ると云ふ有様で、そばへ行つても塔守も居ません。塔の基底あたりには草がぼう／＼と茂つて居ます。時とすると其處が石炭置場になつてゐたり木工工場になつてゐたり煉瓦焼場になつたりしてゐます。御寺はあつても住職はゐません。本堂の前はルンベンの晝寝の場所になつてゐます。

滿洲人は寺と云ふものを何と思つてゐるのでしょうか。坊主は世捨人であるから一般の人は相手にしないと云ふらしいし、坊主も世の中の事は全く無關心だと云ふ心得から掃除もしないらしいのです。其くせ葬式だけは盛大で其時だけは坊主を大切にするらしいです。兎に角寺の荒廢殊に塔のやりつばなしは、ひどいものです。泥ムクで石張であるのと地震が無いので倒れずに今迄來てゐるわけです。其石張の石の彫刻も大半は風雨の侵蝕の爲めにこわれて如來の姿も不分明です。滿洲人は自身の利益以外の事は全く知らん顔です。寺なども保存を講じません。

内地見たいに史蹟名勝天然物保存調査會ナンのものは無いのでこれら其儘と云ふ有様です。塔に限られません古墳でもそうです。東陵北陵も、この頃は手入をしてゐますが茲數年前までは全く草茫々たる有様だつたそうです。保存

も譁じないがわざ／＼こわす様な面倒な事もしないので今迄残つて居るのです。あるがまゝ、成るがまゝにして居るのです。こゝらが國民性の現れであらうと面白く思ひました。

十一

山海關の海岸から萬里の長城が續いてゐます。蜿々尾根傳ひに上つて行く其長壁を見て秦始皇の大事業を今更ながら感心し驚嘆しました。下から見るとさのみ大きくも見えませんが、其壁の上へ上りますと中々幅の廣いものです。其處を歩きながら山海關の町を見下して前年の事變の話をききました。公共物保存の念の少ない支那人はこの長城も唯荒れるにまかして居ますが、舊態をあまり損せずに残つてゐます。その上をどこまでも／＼歩いて行つて見たくなりましたが、それも行かないので遂に天下第一關の額のある門のところから下へ下りました。そして驢馬で角山寺の山へ上りました。途中は殆ど長城と平行して山を上るのです。長城のある尾根からの斜面の草地には羊がどつさり放牧されてゐました。角山寺の山は海拔千尺位でありますが見望は甚だ良しい。海の方への眺めも良しいが山の方への眺めも中々よろしい。寺で水は無いかと聞いたら雨水を御馳走して呉れたのにはいさゝか閉口しました。

萬里の長城は今迄無用の長物あつかひされてゐましたが、滿洲國が出來てから其中華民國との國境をきめる時最も都合のよいものとして此の長城が其價値を上げたのでした。然し西手の方では果してどうなつてゐるか私は知りません。

シユパン教授とファツシズム

助教授 赤羽豊次郎

最近の新聞紙は中歐諸國を中心とする歐洲不安の狀勢を報し、或は維納の一角を一九一四年のサラエヴォのそれと比較せむとするものさへ現はれてゐる。また埃太利伊太利接近を以てムツソリーニの中歐制覇の現はれとみる向きもある。故倭小宰相ドルフスが社會民主黨を彈壓し、議會を解散すると同時に獨裁制を確立したのも、埃太利が伊太利の先例に倣はむとするものとみられ、またハブスブルグ家の復辟運動もムツソリーニの指針によるものと推測され、現にオットオ大公の羅馬訪問の記事さへ散見する次第である。

かゝる埃太利當路者の親伊政策は或は同國の國際政治上の地位、國內の社會的經濟的狀勢の結果であらう。特に、注目すべきは國內に居住する所謂埃太利獨逸人の動向である。従來かれらの政治的理想は或は獨逸合併にあるとされ、若くは復辟にあるとみられてゐるが、具體的には戰前に於ける獨逸帝國の繁榮の再現を企圖する點にあつたことは疑はれない。尤もそれらの人々のなかにも窮乏せる祖國を救出し、かゝる理想の實現のためには、如何なる政治的、社會並びに經濟的機構を採るべきか、に就て必ずしも意見の一致をみたわけではない。或は私有資本主義の強化を、または社會主義的手段をすすむるものもあつた。この間にあつて教授オトマル・シユパンはその形而上學的・社會哲學的見地より、これらの諸方策の實行不可能なるを説き、むのろ中世的身分國家の構造を高調し、その理論化に努力してゐたことは既にひとの知るところであらう。

かれの國家論は一九二〇年その維納大學に於ける講義に於て始めて體系化され更に『眞正國家』O. Spann, Der wahre Staat, Jena 1933, の書名を以て公刊されるや所謂洛陽の紙價を高むることになつたが、他面一種のユウトピア的理論との酷評さへ受け近年に至つた。ところが最近數年間に於けるかれらを巡る二つの強國の情勢の變化、すなはちムツソリーニのファツシズム國家の素晴しき進展と獨逸に於けるナチスの擡頭とはシユパン學說のよき試驗臺であり、且つそのよき支持者ともなるに至つた。で、この情勢に力を得たわけでもあるまいが、昨春來かれは努めて筆に、舌に、自己の所説とファツシズムとの關聯を説くことゝなつた。その一はムツソリーニの『ファツシズムの理論』Benito Mussolini, La Dottrina del Fascismo, Milano, 1932, に關してであり、その二は一九三三年六月九日羅馬に於けるファツシスタ商業組合の大會に於てなしたかれの演説に窺ふことができよう。

二

ムツソリーニは伊太利のエンサイクルペデアに寄せた前掲の論文に於て、先づファツシズムは初めの行動に過ぎざることを示し、近年に至り漸く理論をもつに至つたことを述べてゐる。『ファツシズムは始め机上で、でつち上げられた理論ではない。それは行動への要求から成立したものであり、すべては行動であつたが、それも政黨であつたわけではなく、最初の二年は反政黨的且つ變通的に編成されてゐた。余が名づけて組織といへるはこの特徴を示してゐる。當時の緻くちや文書で伊太利ファツシスト結黨大會の記事を讀むものは、そこに何らの理論をみるを得ないであらう。たゞ讀まれ得るは初の若干の年月以後、一連のプログラムの題目に發展するに至つた合言葉と、そして前もつてなされた暗示や警告の系列に外ならない、尤もその後、それらは不可避な且つ偶然の影響から離脱するに至つたが。これらの諸點はファツシズムを先づ過去及び現在に於ける凡ゆる他の

ものと相違する政治的且つ独自の根據をもつ、實踐的理論に到達せしめたのである。』(Zeitschrift, „Ständisches Leben“ 3/1. 1933. S. 2)

然らばファッシズムは奈邊にその理論的目標を求むるか、またその國家觀は如何なるものか。氏は前者に就て、ファッシズムはマルキシズム及び自由主義との相反にあることを認めてゐる。マルキシズムが人類史を階級闘争と生産手段の交換から理解せむとするを非なりとし、この説は人間を表面に浮上る史上の人形にすぎずとなすから反つて人間こそ文化に於ける深き、眞の形成力であるとも、更に階級闘争が歴史の經濟的觀察の自然的結果であり、社會的改構の原動力とみるは誤りなりとする自由主義に就てはその使命は既に前世紀に終り、現代のあらゆる政治的經驗は反自由的であり、いまこれを主張するは滑稽の極みであると擲論してゐる。轉じて人間社會を單一なる多數決の事實より導き、或は普通選舉の如き機械的・外面的事實により同一水準に置かむとする民主主義の制度は、人間性に關する完き知識を缺くがためであると論斷し、人間に於ける不變の創造的不平等の存在を主張するのである。従ひて、ファッシズムはこれらの主張とその人間觀に於て、國家觀に於て異らなければならぬ。後者に就て、『ファッシズムの理論の眼目は國家の理念であり、その本質・任務と終局目的である。ファッシズムの國家は、單なる集團と個人が相對的なるに對し、絶對的のものである。自由主義國家は決して共體體の肉體的・精神的發展に想到せず、つねにその効果を確保せむと努めてゐる。これに反し、ファッシズム國家はその固有の存在意識と固有の意思を持ち、己れを又一倫理的「國家と指稱するのである。』だから、ファッシズム國家は市民の個人的安全を計る夜警的のそれではなく、また物質的目的をもつ組織でもない、むしろ確實なる厚生生活と比較的平和なる共同生活の保障を眼目にしなければならぬ。そのために行政委員會が設立せられるが、それも個人並びに國民の實際生活との連繫を缺かば、政治的行動を完成し得ないだらうと説き『國家は精神的・道徳的事實であり、更に特定の政治的・法律的經濟的組織であ

る。而してその源泉と發展のうちに再び精神の表示がみいださる。國家は内外の治安を保持するが、また永き世代に亘り言語・慣習・信仰に現はれる國民精神の番人であり仲介者である』となしてゐる。(S. 1—9.)

以上がムツソリーニの主張の主要であるが、シュパンは、何故にム氏が社會主義理論を誤れるものと斷じ、また資本主義的・自由主義的の途を採擇せず、第三の道を選びしかを推測して、それは明かなる歴史の必然性と、この生來の政治家がもつ天才的素質に相應しき本能とに歸してゐる。確定の理論なく建設の大業にこそしめたるは畢竟かれの心に充つ深き内面的衝動に基かう。建設・安定・繁榮に對する内面的感情こそかれをして一意行動に専心せしめたのであらう。併し、一度建設の業なるや組織の強化は理論的基礎を要求するに至る。また史上の大事件をみるも、それが思想の先行せざるものなしといふも過言ではない。かの佛蘭西大革命も當時の個別主義的・自然法學、經濟學、社會學や主我的哲學なくば不可能だつたらうし、一九一七年以來の露西亞の發展もマルキシズムの理論を伴はざれば到底實を結ばなかつたであらう。ファッシズムと雖もこの例外をなすわけはない。その事業は漸くその第一歩を踏み始めたところである。この秋に、かれがその理論的根據を強固するに努むるは、極めて自然の成行であらねばならぬ。かれの敵視する個別主義的、社會主義的理論は獨り政治的行動によつて克服せらるべきではない。ファッシズムも生活の全領域、特に國家・法律・經濟並びに社會にわたり深きよき理論體系を建設し、これに對抗しなければならぬ。況んや徐々としてファッシズムの内部に發生する無意識的自由主義への退化は、かゝる理論の完成と普及によつてのみ防止し得よう。ム氏はファッシズム理論の論廓を與へたが、いまだその全貌を示してゐない。ファッシズムの最初の十年は政治的建設に終つたが、次で入り込む第二のデツェニウムは専ら指導者の提示せる理論の深化であり完成であらねばならぬ。(Spann, Instinkt und Bewusstheit in der Geschichte des Faschismus, auch Ständisches Leben 3/1)

シュパンがファッシズムに關心をもつ理由の一は、明かにかれの學説が漸く伊太利(又ナチス獨逸)に於て普く認められるに至つた點にある。叙上の如くファッシズムは初めボルシェヴィズムと自由主義の排撃に從つたが、それも尙行動の組織に止まり、特定の理論から指導せられたわけではない。理論確立の要望はム氏のファッシズムの理論に於て、一先づその輪廓が明かにされたが、未だ學的體系をなすに至つてゐない。ファッシヨ理論の構成は必然者に反對理論の吟味に向されなければならぬ。シュパンはその羅馬講演に於て、この點を重視し、この二個の反對思潮をその社會哲學的立場より個別主義の範疇におき、それらの國家觀經濟觀を概観し、進みてファッシズム的、全體主義的考察を展開してゐるが、こゝではその國家論の紹介を以て筆をおかう。(Spann, Die Bedeutung des Staatlichen Gedanken für die Gegenwart, Staatliches Leben, 3/7)

個別主義は個人の自主性の理念、個人の精神的自己決定を基調とする。アウタルキイ政治概念は個人の無限の自由である。かかる自由は國家以前の所謂自然の狀態に於てのみひとの保有するところであるが、各人がその天與の權利を自限し權力者との契約により國家を構成するのである。そこでは(一)唯一つの主權の存在(二)支配者意思・國家意思は市民の意思の反映であり、(三)市民は國家意思の改訂、支配者の改選を求め得ることになり、その手段として選舉制度を採用するに至る。これ現今の自由主義的民主國家である。而してこの政治機構では市民の政治行動の補助機關として政黨が組織され、國家意思の構成に不可欠の機關となる。かゝる個別主義國家の特質は中央集權、選舉による國家思想の機械的決定政治關係に於ける市民の機械的平等並びに自由を政治的主要概念とみるところにある。

全體主義は個人の自主性を認めず、専らこれを共同體の分肢となすにある。個

人の本質と概念とは共同體に於てのみ成立つ。共同體はアトム的個人の合計ではなく、有機的構成である。有機體は同質者構成に非ず、反つて異質的であるから社會を形成する肢體にも雑多の生活圏レヒエンズクレイゼ・共同社會圏が存在することになる。すなはち宗教的共同體・藝術生活・科學生活或は國家生活はこれらの固有の共同社會である。而してこれらの生活圏が如實に組織づけられると身分シュムゾフを形も造る。廣義に於ける身分は有機的共同體、行爲の有機的體系である。かゝる社會構成から共同體は地方分權者構造に從ひ、國家・教會・經濟は等位として、それぞれ特有の方法により自己統制を營むものとされる。この自己制禦の主權は、個人の主觀的意思から抽出されず、身分の事物要求から運營さる。言換れば全體の生活要求から指導される。(SS, 353) かれはこの事物主權の原理から自由主義、民主主義若くは選舉の個別主義的見解が克服され、國民主權の論理に代ることになるといふ。また指導者の職能に就ても、從來の如く「個人意思」の執行にあるのではなく、全體の生活要求の達成にあるから先づ超個別的者を究めその實行に當ることになる。従ひて先づ専門家的素養を有せなければならぬ。また従前の所謂「選舉人」の適格者は指導者の實現者・隨伴者となすわけである。

かく國家は身分の一とされ、客觀的には有機的構成體の姿型を採り、主觀的に國家形成維持の人間圏とみられる。而も教會・經濟と異なり最高且つ指導的地位を占め、他の諸身分に先位する。またその國有の生活要求から遂行すべき國家任務を決定する。その主たるは下級身分の指導的任務であり、副次的任務として諸多の干渉政策を行ふ、社會政策的施設の如きその一例であらう。この身分國家は本質的に指導者制度を新設するが故に、民主的見解に於ける『政黨』制度を無用らなしめる。シュパンは伊太利ファシスト組織が政黨を欠き、身分的指導者組合の結成を初期の事業となしたも、或はナチス運動に於ける幾多の經過もこの理由に基くと説いてゐる。かゝる身分國家のもつ特質は、すべてが地方分權的であり國家意思の實現は指導者制度にする、また機械的平等に對する有機的平等・抽象

的自由に對する有機的自由が前景に齎らされる、これらの諸點であらう。

(昭和九年八月二十八日)

丁抹國際法學界の近業

アクセル・モローア教授

平 戰 國 際 法 第一卷

越 智 弘

或理論家は極めて端的に過去四世紀が國際法學の發展段階を構成する歲月なりとし、それ自身の包藏する多くの構成法規 (legal constitutions) 的欠陥は之を國內法に對照するに於て更に顯著なりと説く。然しながら國際法學の發展の將來性を理論的に豫定し得る限り、當該社會に於ける立法、裁判、又執行機關の存在を確認する必要あると共に、之が爲めには各國の強力なる相互的結合に基く法的機構が必至的要素として要求さるゝ結果、尖锐なる一部の論者を普遍主義的傾向へと導入したのである。

國際法は國內法に比して法的權造に於ける余りに多くの理論的、實證的欠陥を有するが故に、反面其構成法規的整序の要は、其範圍内に於ける二元論の放棄と共に、目前の運命的課題として指摘されねばならぬ。國際社會の無政府狀態は同時に國內社會に於けるそれを意味する。現代文化の段階に於ける經濟的、技術的發展は國際的合意の増加を招來し、それ等の國際的共通利益は各個別利益に優位するに於て、國際社會に於ける共通利益の法的規整は極めて重要である。歐洲大戰に於て戰時法規の根元的破壊にも不拘、國際法の重要性今日より甚だしきはなく、然かも總ては將來に於ける一層の重要性を指示するのである。アクセル・モ

ローア教授はかくして其新著の序文を進める。

二

著者はコペンハーゲン大學に國際法講座を擔當する學徒であり、本書は一九二五年十二月第一版を上梓せる教授の平時國際法論に該當すべき第一卷である。

凡そ現代法理論界に於ては鮮明なる旗印を掲げた三個の島嶼の分立がある、純粹法理論民族法理論、又過渡期法理論は其代表的學説として揭示することを得るが、此等それらの法理論が普遍的、民族的、階級的特質を保有する反面、其理論的色彩は個々の理論的分野に於て鮮明に描出されざるを得ない。然るに現今國際法學界の各個の文献は其數量に於て必ずしも僅少ならずとするも、猶且つ此等の論点を基礎的に究明せる業績は殆んど存せず此秋に於て本書が持つ實證的、批判的歴史的研究は斯學へのアンツロデュクションを提供すると同時に體系のテキストとして高く評價さるべきであらう。

三

國際法を「國家内の法的關係を規整する法原則の集なり」(一頁)とし、單なる道徳的、政治的、自然的原则より峻別せる教授は、其内包と發展過程を古代・中世・今世の三期に分屬せしめつゝ、ウエストフアリア平和條約(一六四八年)以下一九二九年に至る重要條約數二十四の歴史的研究を試み、更に非政治的條約、財政、經濟會議に論及すると共に、特殊條約、慣習及實際を検討するのである。

第四節は之を「國際法學」の研究に捧げ(四四頁以下)第一期をグロテラス以前とし、先づ彼の學術的業績を研究すると共に自然法學界の中樞概念的機構を探究し、次に後繼者に對する論述を爲す一方、實證主義學説をサヴィニー、Martens、マルテンス Martens に結ぶのである。次に現代に於ける國際法學の現況と併せ文献の網羅的列擧、國際法研究團體の摘示を爲す一方、條約集、定期刊行物、及補助科學としての外交史上の重要文献の指示に及び著者の細心の注意が窺はれる。

第參節(五九頁以下) 國際法の淵源なる條下に於ては條約、慣習、實際、類推條理を掲げ、國際法の法的本質の檢討に移行する(六六頁以下) 教授がブフェンドルフ、ヘーゲル、ベンタム、オースチンの法理論を指示し乍ら、國內法への法的強制力の比較に於て、猶ほ心理的強制を排斥しつゝ、外部的強制としての「正義」を極めてドグマティックに認容するに至れるは正に一元論が法果せる論理的悲劇である。然かも尙、教授は結局に於て少數に家に於ける國際法への國內法的保障作用を基礎とする限り(六七頁) そは國內法優位理論を基礎づくるに過ぎないであらう。

主權の諸問題を檢討する第十節に於て教授は「主權とは、國際法の制限内に於ける個別的行動の自由である」(一四〇頁) とし、外面的には國家の同一性、同一行為能力、不可侵權、非干渉權、モンロー主義、文明的發展よりの自由を意味すとし、内面的に立法、執行兩側面に於ける自己權に於て顯現し、そは領土的優越國際地級、人的優越に於て認容された。

以上が第貳章終末に至る主要論点である。

四

第參章に於ては元首、外交使節、及數國家の合意たる條約、會議、仲裁々判、國際委員會が取扱はれ、第四章に於ては國際法上の正常關係が研究される。國際法の法的關係は國家間或は國際法の規整下にある他の國際法主体間の關係であり(一九七頁) 國際法の法的關係の主體は原則として國際社會に屬する國家乃至は國家的結合であるとし、其適例として「國際聯盟」を學示するのである。(二〇〇頁) 同時に其國際行為能力を國際法的關係に於ける權利義務主體たる能力とし、そは國際社會員のみの特權である。(二〇一頁) 従つて國際社會に於て主權團員のみが大なる國際主權を保有する。(二〇一頁) 以下、公論(二〇四頁) 國際河川運河(二一五頁) と共に、第二十條に於て條約一般の研究を試みたのであるが、

その各處に於て政治的及非政治的見地よりする研究は遺憾なく抽出されてゐる。之等に次ぐ第二四節、國際法違反(二八七頁以下) 第二五節、國際的權利、義務の強制(二九五頁以下) に於ては各個の保證作用と同時に、集合的保障條約としての「ロカルノ協定」が檢討され、第二六節に於ける權利、義務たる國家相續は各個の條約上の根據より構成されてゐる。

之と共に本書は其末尾に極めて詳細なる事項索引を附せるが故に、テキストとしての價值は一層増大してゐる。

五

以上が本書の論点に對する粗雑な描寫であるが、尖鋭なる理論の割據せる現今國際法學界に唯だ憾むらくは教授が勞農露西亞に於ける過渡期者理論構成に一瞥をも加へられなかつた点である。然しながら多難なる學界にシステマタイズされた本書の出現は必ずしも絶對的ではないが、少くとも複雑なる法理論を檢討する若き學徒にとつては、水準下ではあるが、反面批判主義的色彩に富める丁抹學界の代表的述作として意外の收穫と之に伴ふ歡びを齎らすであらう。

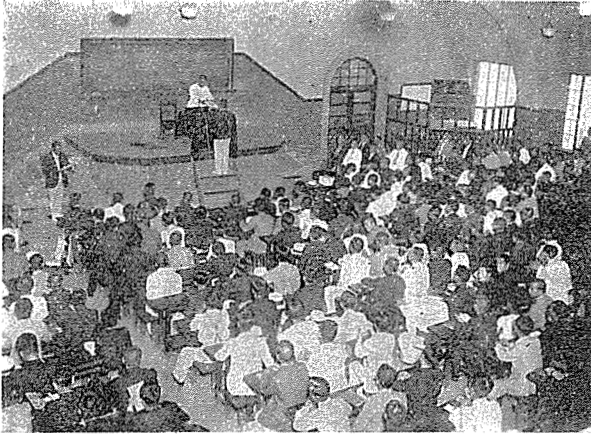
學 內 報

第二學期始業

第二學期授業は大學各學部は九月十七日、第一及第二大學豫科は九月十一日、専門部第一部及第二部は九月十四日開始す。

専門部第二部補缺入學

専門部第二部補缺入學試験は九月二日施行。



語學講習會を終了證書授與式

校 友

朝鮮支部

役員改選—本年春期總會に於て役員改選の結果左記の如く決定した。

顧問 岡本 至徳、吉田平次郎、植野 勳、

寺川 三藏、末廣 清吉

支部長 松本 正寛

幹事 崔 鎮、高橋 伊平、野田 博、

加來 定義、井内源次郎、江藤 榮七、

中村 簡吉、大川 正雄、小西 耘人

事務所 京城府私泉町一、朝鮮精米會社内

大 三 會

第二十七回會合福田君歡迎會

昭和九年六月三十日午後六時より、於大軌沿線布施、叶家

住友銀行の支店長異動で東京神田支店から大阪道頓堀支店に榮轉來任した福田節造君の爲に其祝賀と歡迎の宴を開く。

大銀行の一流支店長さんだから少しは奮發して相當な所での議も出たが現在の榮達程度を標準とする會合は普通の社交だ貧富榮枯を問はず二十年前の燒芋書

生に毛が生へた位を原則とするのが本會の特色だからと常任幹事君一流の頑張りが通つて至極質素に然し内容はや或意味に於て頗る豊富に實現さるゝ事になつた。

當日は土曜日で午後閑散な諸君の爲にと云ふ幹事君の配慮で漫談會、麻雀、園碁と云ふ趣向の準備も整へられてあつたが、精勵家揃ひ？の事とて午後早々乗り込むと云ふ程の有閑連も無く定刻より少し前と云ふのが先頭で内田、福井、島、戸波の四天狗が各々一二面鳥驚を戦はすのみ、夫々顔を出すと直に風呂に飛び込んで浴衣に寛ぎ殿りに到着した主賓を捉へて一別以來の挨拶を交す。

早速配膳献酬一巡の時眞砂町のセンセイ事橋本挨拶奉行から常任幹事に注意があつたが結局多數決で暑苦しい折柄下手な挨拶は抜いた方が宜いと云ふ事になる。

遅れ走せに杉本寫眞館主君と井波市議君が出席する井波君は泉尾署長時代に一粒種の嬢チャンを亡くして以來亦こしらへたと云つてニュースを聞かないのに五歳ばかりの可愛い坊チャン同伴でお父チャン／＼と慕はれて眼を細くして居る。はて面妖などは思ふたが扱それを追究する野菜もなく座に侍る美形連が右左から坊チャン／＼と此處人氣を此坊チャンに獨占された形である。

興酣の頃恒例に依り杉本君を煩して記念の撮影をする。流石に大部分は浴衣で納まつたが無頓着で通つて

夏期語學講習會

第十二回夏期語學講習會は前號豫報の如く七月十六日開講、八月四日終了したので、終了當日午後六時より講堂に於て終了式を舉行、仁保學長より終了證書を授與し、講習生一同に訓辭ありて七時式を閉ぢた。因に各科會員數は次の通りである。

英語科 五二四名
獨語科 二六名
合計 五五〇名

◆學内消息

大山、河村兩教授歸學—滿洲産業建設學徒研究團指導教授として、第二回渡滿の行を終え八月十四日無事下關着。學生一同亦皆元氣にて歸國せり。行程—門司—大連—奉天—山海關—大虎山—通遼—鄭家屯—洮南—チチハル—克山—北平—ハルビン—新京—安東—京城—釜山—下關。

住所移動

谷口 宗一氏 (教務課) 三島郡吹田泉町三二八一
城内 暎氏 (教務課) 三島郡吹田泉町二六一四

訃報

西村教授嚴父逝去 西村信雄教授嚴父千吉氏は八月二十二日逝去さる。

城内書記室令嬢逝去 専門部教務課勤務の書記城内 暎氏令室は七月十二日、令嬢全十五日逝去さる。

居る橋本、松木茂、井波の三君は相不變俺はこれ上等だと双肌脱ぎの肉體美やら骨體美を發揮して美形を間にニコ／＼振りを並べ人氣者の坊チャンも美形の膝に仲間入りをする。

撮影終りて再び宴に移り十二分の歡を盡して散會したのは十時過であつた。

當日の出席者左の如し

福田 節造君 室田 貞男君 山本督次郎君
杉本 治作君 戸波 次郎君 福井 山吉君
松本芳太郎君 中塚 竹藏君 佐古 信三君
島 貞司君 井波 義吉君 橋本 鹿藏君
松本茂三郎君 内田 政一君
以上十四名 (次第不順)

尙文會總會

昭和八年度國漢科卒業生より成る尙文會にては、六月十日夕、南海高島屋七階サロンに於て總會を開催した。

藤澤、新町兩顧問をはじめ會員多數出席。會則の收制、役員選舉、重要事項の打合せをなして宴に移り文學に、追想に、會員の動靜に歡談時の過ぐるを知らず閉場時刻に到り名残りを惜みつゝ母校の發展と會員の健康とを祈りつゝ散會した。猶、本會の會誌は八月下旬發行の豫定。

幹事 中川多喜藏(新) 佐々木卯平(重)
奥原 正男(重)

動靜

坪内 士行氏 (元 講師) 寶塚劇場より東京寶塚劇場に轉せらる、東京市麴町區日比谷、東京寶塚劇場文藝部、住所東京市牛込區新小川町二丁目十番地江戸川アパートメント一〇五

中村 守君 (明三九専法) 辯護士、曾て市會議員、縣會議員たりし氏は今回大分市議戰に立候補し當選した

大月 伸君 (大六 専法) 辯護士、事務所を北區堂島船大工町三六(電北二六一七)に移轉

山本 芳文君 (大八 専商) 野村銀行新町支店より天満支店に轉勤、住所住吉區田邊東之町五丁目三〇
安藤 謙一君 (天一〇専法) 聯合通信社勤務、住所尼崎市難波中通八丁目二〇三

吉田鹿之助君 (天一三専法) 大藏省主稅局勤務
口羽 彰君 (天一四専經) 愛媛新報記者を辭職す
島崎 良雄君 (昭二 専法) 三峯郵便局を辭し、朝鮮

清津府目實田町九に居住
執印 正俊君 (昭三 専法) 大日本セルロイド會社本社より兵庫縣揖保郡網干町網干工場勤務となる
加藤 昌秀君 (昭五 大法) 株式會社大鐵百貨店に入社、開業準備事務に執筆す

辻内 良隆君 (昭七 大法) 辯護士となる
鮫島 武次君 (昭七 専法) 辯護士となる

上田 勇君 (昭七 專法) 大阪區裁判所より大阪地方裁判所に轉勤

西田 貞雄君 (昭八專二商) 高島屋南海店勤務
加治 正信君 (昭九專二商) 日本金網會社大阪工場を
辭任す

津田 敏郎君 (大八 大商) 昭和九年六月三十日逝去
遺族阪急沿線櫻井四番通四丁目、交津田彌市郎

磯田 兼三郎君 (推) 昭和九年八月十七日逝去
遺族奈良市角振町、嗣子磯田辰男

住所移動

成田 惟忠氏 (元 講師) 京都市伏見區桃山町泰長
老七九

菅生 豐君 (明四五專經) 豐能郡豐中町新免九二五
鹿喰治三郎君 (大二 大商) 京都市世田谷區赤堤町二
丁目五四六

山内 朝登君 (大三 專法) 豐能郡豐中町新免二六六
三木甚太郎君 (大三 專法) 尼崎市神田北通九丁目二
四六

岩尾 廉君 (大三 專法) 豐能郡豐中町新免元六
長谷川 涉君 (大三 專商) 兵庫縣武庫郡御影町石屋
字左美也一五八ノ五

軌保 昌範君 (大三 專法) 明石市外玉津村
生島又之助君 (大四 專商) 明石市忠度町三

前田 貞次君 (大六 專法) 北區善源寺町入丁目四八
柿原 柘君 (大二專經) 西宮市川西町四〇(名川
住宅三四號)

鈴木 一郎君 (大二專商) 橫濱市大岡町三〇八
玉置 亮君 (大二三專法) 大阪市住吉區天王寺町二
二七六笠置方

森田 重壽君 (大四專經) 中河内郡布施町七九六
神保 敏男君 (大五大法) 尼崎市神田中通六ノ二六
村田 重吉君 (大五專法) 京都市品川區西品川三ノ
八四〇

油谷 英一君 (大五專法) 朝鮮忠清南道舒川郡
大野 矩雄君 (昭二 大法) 大阪市天王寺區上本町十
丁目五一

伊崎 義雄君 (昭二 專經) 福岡市西堅粕花見町三三
杉田 英一君 (昭二 專商) 京都市芝區白金三光町二
六七

吉永 登君 (昭二 專文) 豐能郡石橋二五
塚本 正一君 (昭三 專法) 神戸市林田區片山町二丁
目五五番屋敷

山口 辰雄君 (昭四 大經) 三島郡高槻町南園町六六
近藤 宣正君 (昭四 大經) 住吉區常塚山西五丁目買
本間 超三君 (昭四 專商) 宇治山田市吹上町

藤澤 幸治君 (昭四 專法) 旭區北清水町七六五
中尾 幸一君 (昭五 專法) 大阪市住吉區桑津町三五
四ノ一

住野 武雄君 (昭六 專商) 神戸市兵庫區松木通六丁
目二二屋敷

龜岡 愛藏君 (昭六 專法) 京都市芝區白金台町一丁
目二九、加藤京子方

宮脇 史郎君 (昭六 專法) 松山市南端端海南新聞社

小谷 駿義君 (昭七 大法) 滿洲國新京八島通三八、
近藤謙三郎方

山本 清君 (昭七 專經) 京都市大森區大森町五丁
目一九七〇

高橋 忠男君 (昭七 專法) 京都市下谷區谷中初音町
一ノ三二、山田信善方
大島 武夫君 (昭八 大法) 東淀川區元今里北通一丁
目三一

村上嘉一郎君 (昭八 大法) 兵庫縣武庫郡住吉村字中
島四一八ノ三

茅原 卓雄君 (昭八專一經) 北區中野町一丁目
小倉 信義君 (昭八專二商) 朝鮮大邱府三笠町一ノ一
磯田方

相馬慶三郎君 (昭八專二經) 中河内郡中小坂町五五〇
安達 壽君 (昭八專二商) 此花區龜甲町一丁目六
森田 光典君 (昭八專二經) 北區中野町二丁目一〇二
堤傳方

磐長谷 正君 (昭九專一商) 西宮市今津町今津高潮一
〇二

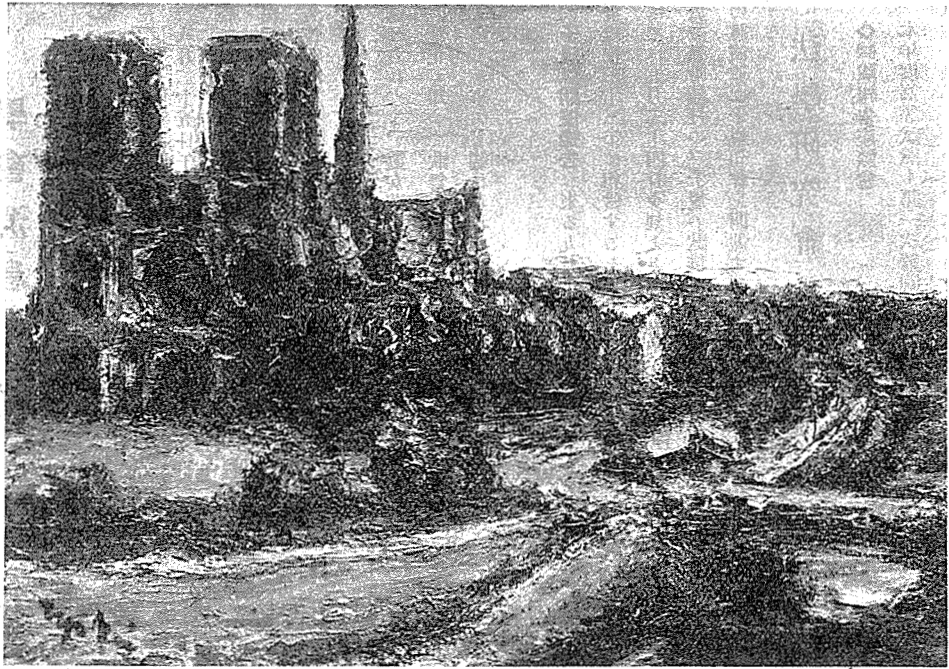
橫谷 絢一君 (昭九專一經) 朝鮮京城府義州通一丁目
二八、岡田方

菊地 賢作君 (昭九專二法) 東成區南中濱町三ノ二七
二、清水安次方

皿谷 鹿一君 (昭九專二英) 西淀川區大仁本町二丁目
一〇二

改姓名

大一一專商 關 當夫 (舊) 德永 當夫 (新)



ノートルダム・ド・パリ

鳥海青児君筆

校友のプロフィール

鳥海青児君

略歴

明治三十五年三月四日、神奈川県に産れ、大正九年藤澤中學を経て、本學豫科に入學、大正十五年經濟學部商業學科卒業

畫歴

大正十三年 第二回春陽會展より現在迄引續き作品發表

表

- 昭和三年 第六回春陽會展に春陽會賞を受く
- 同四年 第七回春陽會展に春陽會賞を受く
- 同五年 春陽會會友(無鑑査)に推舉さる
- 同八年 歐洲留學
- 同八年 歸朝第十一回春陽會展に特別陳列
- 同八年 春陽會會員(審査員)に推舉さる

春陽會最年少審査員として今は時めく君も畫を正式に初められたのは中學二年の頃で、本學在學中には既に三回の春陽會入選の榮を得られて居た。而して天稟の才は音樂にも多大の關心を持たしめ、學部在學中は音樂部のギターパートを擔當、演奏旅行には常に君の瀟灑たる姿に接してゐたのである。歐洲留學に際して、君が畫の行脚地としては、ロシア、ドイツ、オーストリア、スイス、ベルギー、オランダ、フランス、イタリー、スペイン、モロッコ、アルゼリヤ、奥地サララ沙漠等の廣遠の地域に亘り藝術の爲に精進せられたのである。

鳥海青児君の藝術の批評として、洋畫研究第十五號には、

「鳥海青児君の繪畫の根柢をなしてゐるのは、何んと言つてもラファエルのな甘味さご美しさであると言ふことが出来る。彼の外遊迄の數年間には恐らくこのラファエド時代であると言へる。この間に彼は幾分ロマンテイクなまたサンチマンタルな繪畫的な甘味さを滿喫することが出来ただらう。また彼のマチエールに對するデリカシエもまた、この間に習得されたものと考へられる。かうした繪畫的な基礎の上に、かれ鳥海君の藝術は築かれたもの言はねばなるまい。ノートルダム・ド・パリなごその茶褐色のモノクロームなマチエールは、驚くべき重厚さを加へた弾力性を倍加してあると言へる。その重厚なマチエールは畫面に強固な



寫實感を持たせ、クットオによつて描かれた道や空の變化によつて、繪畫的なヴァリアルを持たせることに成功してあると言ふことが出来る。私達の考察がもしも誤つてゐないとするならば、彼は恐らく日本の作家や歌人が自然を歌ふやうに、豊饒な自然の風景を歌ひ、その甘味なポエジエを描き出す畫家であると思はれる。いまや彼の藝術は重厚なマチエールをもつて、實りはじめである。この堅固なマテリアルが、何う言ふ角度にその藝術を展開して行くかは今後にまたねばなるまい。私達は多幸な彼に特に期待をかけてゐる」と。

關西大學校友としての君は蓋し異色ある存在である。(寫眞は鳥海君近影)

學會消息

國文學會

八月二十五日午後六時より天六學會に於て例會開會、金子實英講師の「歌舞伎史話(元祿以前)」と題する講演あり、歌舞伎の搖籃時代より遊女歌舞妓、若衆歌舞妓、野郎歌舞妓への變遷發展のあとを述べられつゝ、遊女歌舞妓、若衆歌舞妓の禁止が却つて歌舞伎發展の上に好結果を齎した事にも觸れられ、興趣深い講話であつた。

子規忌開催報告 来る九月十九日は子規歿後三十三年に相當するを以て、本會にては九月二十四日夕刻より天六學會に於て新町教授の「子規の歌俳について」の講演並に子規句會を開催する。

法學研究會

◇體験報告座談會

本年度高等試験も第一次難關たる筆記試験を終了したので、本會出身本年度受

験者の生々しき體験報告座談會を七月十五日午後一時より天六學會に於て開催した。

坂本先生初め指導員七氏、先輩六氏會員廿一名の出席、先づ今年の出題傾向に付きて觀るに、今後は普通の參考書に長く書いてあるやうな問題は出ずに、受験者が如何に廣い範圍に、又如何に深く掘り下げて研究して居るかを檢する爲に參考書に餘り書いてないやうな部分が出るのではないか? 本年度司法科、民法第一問の「法定地上權を説明すへし」などは體かにこの傾向を物語つてゐるものと謂へやう。

それから參考書に付き、現在の汗牛充棟も當ならざる參考書の海に直面して、一冊主義、多冊主義、孰れを探る可き乎に付き是非の論岐れたが、結局一冊至上主義が一番である事、唯、極端なる學說の對立點に付き他の併讀が最も効果的なりとの結論に一致した。

言々句々、先輩の連れられし苦難の途の體験談は、誠に有益極りないものであつた。斯くして會員一同は先輩諸氏の今後御成功を衷心より祈り、又會員は先輩



法學研究會座談會の集り

に依り激動されたのであつた。そして各會員は自己が此の關西大學法學研究會を搖籃として他日に於ける活躍の基礎を培ふ事の出來ることを幸福に感じ又光榮に想つた事であつた。

◇第貳回會員募集

此の意義深き會合の幕を閉じたのである。夕暗迫る頃、一同記念撮影を爲して、入會希望者は記録係、森本正宣(尼ヶ崎市外抗瀬古樋堂)宛申込まれたし。眞摯なる高文志望者なれば學部、専門部の何れを問はず又在學生なると卒業生なる

とを問ひません。

因みに第二期幹事の事務分擔を左に
 交連係 西田 茂、藤森勝太郎
 會計係 柿木 種重
 記録係 森本 正宣

計理クラブ

第十九回例會七月二十一日午後六時半
 大阪ビル計理經營學會議室において開催、

不動産の評価 岡本 理一氏
 評價論より見たる不動産の概念及び評價鑑定の意義、不動産評價に必要な基礎的要素と評價方法を説き大阪市内における最近の土地價格について述べるところがあつた。午後九時半閉會。

スポーツ關大

陸上と野球と庭球

橘 生

我が關西大學のスポーツ精神が傳唱されるに至つたのは、ここ數年來のことであらう。そして現在は、陸上競技部、野球部、拳闘部、庭球部が眼醒しい發育を受けて、完全なるスポーツ關大の結晶體を作り上げた。

殊に本年の日本學生陸上競技大會における躍進は素晴らしいもので、我關大スポーツ史上の一偉觀であつた。強豪早稻田大學及明治大學の二校が過ぐる極東オリンピック大會に禍を發して不出場のため關大の活躍は萬障の焦點であつた。それは當に本大會のダークホースと自他共に許す關大のスポーツ精神の發露であつた。

今ふたゝび思ひを馳せて本大會を繰るに、中距離の強豪藤枝は病で起す、従つて當然苦戦は免かれなかつたが、短距離の谷口、槍投の長尾をはじめとして跳躍障礙の福田のほか跳躍の戸上、投擲の城戸、中距離の木下、小西等の多くの選手の活躍が、多く功を急がす他のチームの不振に乘じ、また選手起用に無理をせずして、京大、中央、慶應の豪雄を堂々と壓して、第二位の榮冠を獲得したことは

洵に本學スポーツ史上に輝かしい一頁を飾つたともいふべく、また選手の偉な闘志力を發することは出来ない。

學生陸上競技の對校試合は將に熱と力との試合である。最後の熱と力が無くなるまでひたすらに唯母校のために戦ふといふ一念の發露である。關大が悠々として戦ひ、堂々とその榮冠を握つたことも一重に選手一同の母校愛精神の發露に外ならぬ。靜かに選手の眞摯な競技振りを顧るとき、雨に晒されながらも、よく戦つたその闘志力には肅然たるものがある。

短距離の谷口、槍投の長尾、中距離の藤枝このトリオは將に關大の黄金時代の現出であらう。そしてこの藤枝の缺場を見たこの大會は最初から優勝の望みは薄かつたが、第二位の榮冠は洵に偉大といはねばならぬ。

○百米 一位 谷口睦生 (10秒8)

谷口の優勝は確定的のものであつたがしかしグラウンドの悪コンディションの爲に記録は芳しくなかつた。

新人川手が六位に入等して、短距離の本來に大きな期待を持つことが出来た。

○二百米 豫選には小椋、野口、谷口

と櫛を並べて入選し、二百米握權を豫想したが、准決戦には小椋、野口は敗れた

しかし谷口は22秒2を出して准決戦を踏破し、愈々有望と見えたが、マニラ遠征の疲労の回復が十分でなかつたものか、22秒5で三位に陥たことは、大きな番狂せであつた。

○四百米 從來關大の不振の一つの四百米に、新進中島が奮闘よく努めて五位を得たことは、まさに一つの曙光を見出したのである。今後の進境を期待する。

○八百米 強豪不出場の中距離に、木下の四位、小西の五位は、共に將來に大なる希望を持つ。

○四百米總走 川手、福田、小椋、谷口の巧みなバトンタッチは43秒4で堂々文理大を抑へて悠々一位を握つた。

○千六百米總走 四百米に選手の不足を感じてゐる關大の五位は、結果から見ても上々の成績であり、貴重な得点であつた。

○高障害 准決戦に15秒9を出して昨年度の記録を保持し、三位の入等を占めた福田は、大いに期待する將來を持つてゐる。

○走幅跳 フィールド競技は關大の表看板の觀がある福田は6米49で四位、戸上

は6米40で六位を占めた。しかしフィールドの軟弱のために記録は芳しくなかつた殊に昨年7米60を出した戸上のために惜むべきであつた。

○棒高跳 助走路の軟弱は3米40の記録で城戸が四位に入つたが、實力の記録ではあるまいと思ふ。

○三段跳 昨年14米74を跳んで大島君卒業後の三段跳に嚮望するところ大であつた戸上が14米40で三位に入つたのは、フィールドの悪コンディションで如何ともしがたい。新人吉田が14米20で五位を占めたのは嬉ばしい。

○槍投 一位を占めた長尾の記録は本大會唯一の新記録で66米19であつた。最近の長尾は素晴らしい進境を示してゐる去る四月二十二日甲子園の近畿一般對關西學生の大會に於いて68米59の世界的記録を出し、五月二十四日の極東選手對香港外人チームとの競技會に65米27の極東新記録を出すなど、昨年度の選手權保持者住吉の65米58を遙かに凌駕してゐる。世界新記録の樹立も遠くあるまい。戸上が55米19で四位に入等したのも、共に自重と奮闘を切に祈る。

立教大學 8 A—1 關西大學

得 關 0 0 0 0 0 0 1 0 0 1 1

點 立 0 1 2 0 3 0 1 1 A 8 A

關西大學 5—4 立教大學

得 關 1 3 0 0 0 0 0 1 0 1 5

點 立 0 2 0 0 1 0 0 0 1 4

中等學校の野球から漸く大學の野球に

關心を持出した關西人の期待の中に開かれた以上の戦跡を見るに、勝つた時はシ—ソーゲームを演じ、全く辛勝してゐる。それに返して敗れたときは大きな得點の差を以て、文字通り惨敗してゐる。

これは何を物語つてゐるであらうか。スコア以て試合の上手下手を云々することは早計であるかも知れないが、何等かの缺陷のあることは見逃せない。この間の消息に就いて少しく論述して見たいと思ふ。

○對慶應大學

かつて本田の老巧と西村の剛球をもつてして一勝以來、慶應は常に關大の苦手である。だが果して關大は慶應の敵ではないであらうか。スコアーに現れた記録を語る前に、關大の作戦振りに一瞥を與へねばならぬ。

野球の勝敗の鍵を握る神秘は一重に投

手の片腕にかゝつてゐる。數萬の觀衆、否、ラヂオによつて、また新聞によつて少くとも數百萬の大衆が、一つの大きな心臟を形造つて、投手の一投一球によつて大きく脈をうち、吐息してゐる。グラウンドにおいては敵も味方もこの一球一投に血眼になつてゐる。それほど投手の起用の作戦は重大である。

幸ひにも關大の投手團は、西村、田上北井、それに新人御園生と實に豊富である。豊富であるといつて起用を誤れば、無に等しい。一つの四球、一つの被安打によつて投手を交代させれば、いくら豊富な投手團でもやがて潰滅することは火を見るより明かである。本試合においても敗因は實にこの投手交代の策を誤つたのであつた。北井をリリースした西村に今少しく投げさすべきではなかつたか。

○對法政大學

東西のナンバー・ワンの一騎討ちとしてたどひ關大が慶應に惨敗した直後とはいへ、多大の期待と興味を培した關法政であつた。そして運、不運の行程經緯を判

然と試合の上に現し、十三の四球を與へながらも、關大が運に恵れて奇勝に終つたにせよ、關西諸大學チームの中にあつて、東京の覇者法政を破つた唯一の關大といへば、そこに何等かの威力が忍ばれてゐることが覗かれる。

試合の結果は四對二、關大の安打七、法政の安打四で關大の優勢を明かに物語つてゐる。しかし試合の經過を辿つて見ると關大にも多少の危氣なしとしない。すなはち關大が第一回に西村(正)の安打から一點をリードし、第五回に一舉三點を獲得して4對0と一たん法政を引きはなしたのは關大の好打を十分に推賞出来るが、その反面には法政の中堅手の二回に亘る後逸が關大を有利に導いてゐた、また關大は第六回無死一二壘に走者を置くピンチに遭遇しながら、若林の一壘側バンドは一壘手の上へ飛球となつて併殺を演じ、第八回には一死満塁に追詰められ、またもや若林の一打が二壘手の正面を突く直球となつて再度の併殺に難をのがれるなど法政の不運に對し關大は恵られた試合を順調に進め得たのである。

關大はこの日まづ北井投手を起用し後

に西村投手に代へたのは誠に當を得た作戦であつたけれども、北井が第五回の裏に若林、戸倉に二つの四球を續出するや直に西村を起用したのは餘りにも早計であり、北井を無視した投手交代の策であつたと思はれる。北井は二回に二つ、三回に一つ、四回に一つの四球を出し、その間二つの安打を許したのみで、しかも無得點に過し、投手として何等不足を感じずるものでなかつた。現在の唯一の名投手といはれる法政の若林に對して何等の孫色はなかつた。それに反して西村は四球をつゞけさまに三つを連續してここに關大折角の牙城にひびを入れた。最近老衰を傳へられてゐる西村は事實この日北井に比して遙かに悪く、五回の二點はもろん、六、八回に招いた二つのピンチは何れも西村に原因したものと見なければならぬ。すでに對慶應戦に投手起用を誤つて惨敗した關大が、この試合に危げながらも勝つたことは、洵に無失策を記録した守備の完成であつた。そして苦戦に苦戦を重ねたのも、投手交代早きがためであつたことは見逃せない。

○對立教大學(第一回)

野球の勝敗の鍵は投手が握つてゐるとしたならば、その投手を起用することによつて勝利を博することが出来る。

立教對の第一回戦は完全に、有村、塩田の兩投手に牛耳られて、手も足も出なかつた。立教の安打一四に對して關大の安打僅かに五である。それも散發に終つてゐる。先陣を承つた西村投手の老衰がはつきりと判つた。多く語るを欲しない程に惨めな一戦であつた。

○對立教大學（第二回）

惨敗の後を受けた等二回戦は、幾分興味も薄らいてゐたが、流石に關大らしい試合を見せて下れた。

素晴らしい進境を示した田上の好投は決して有村、塩田に劣なかつた。對立教戦に昨秋辛い經驗を持つてゐる田上としても、男の意氣の一戦であつた。そして立派に九回を完投し、殊に九回の大波亂においても昨秋のやうな動搖も起きなかつた。

田上の快投、稻若の好打が臉にのこつた。立教の一に對する關大の九といふ安打は數においてこそ少いが、それが集出した安打であればこそ、打撃のチーム

關大の名も肯定出来る。いづれにしても關西球界の華といはれる一戦の名に背かない。

目下滿洲に轉戦中の我が野球部も好成績と聞く。秋のリーグに出場か否かの問題はまだ解決されてゐない。又聞くところによれば、今秋は東都大學の諸チームが大舉して關西に轉戦する由。西村の復活が疑問としても、田上、北井の進境を期待して、秋のシーズンを待つことにする。

| 捕 | 逸 | 投 | 策 | 失 | 盗 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 | 十八 | 十九 | 二十 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

春の萌芽のごとく、最近著しく擡頭して来た我が庭球部は、これを藤井、山田倉光の進境に歸することが妥當であらう

早、慶、明、法、立等の東都大學の精銳を始め全日本學生庭球界のオールスターキャスト、シングルルス百五十名、ダブルス七十一組を擁する全日本學生庭球聯盟主催第六回全日本學生庭球選手權大會における本學庭球部の活躍は、關大スポーツ史の一つのエポック、メーキングの感があつた。

シングルス部

ここに本學選手の奮闘史を展開しやう

第二次戦の勝者として、藤井、倉光、山田、北福と譽を並べて堂々と進軍した第三次戦にはシーテットプレーヤー藤井が法政の中野に敗れるの番狂せがあつた
 中野法政) 8-0、8-0 藤井(關大)
 第四次試合では倉光が明大の中谷を敗つて堂々氣を吐いた。

倉光(關大) 4-0、6-3、6-4 中谷(明大)
 第五次試合において倉光は更に法政の中野を敗つて、藤井の雪辱を遂げた。
 倉光(關大) 4-0、6-2、6-4 中野法政
 第六次試合即ち准々優勝試合に、連日

の奮戦の疲勞から倉光は遂に東商大の高田の軍門に降つたが、その闘志力は廢すべしである。

ダブルス部

北福と山田、藤井と倉光の絶好のコンビは第二回戦の勝者となつたが、第三回戦において北福、山田組は敗れ、第四回戦に進んだ藤井倉光の組は、早大の津田田中組を簡単に退けた。

藤井(關大) 6-2 津田
 倉光(關大) 6-3 田中(早大)
 准々優勝試合で更に明大の中谷、塚田組を一蹴して准優勝試合に進むを得た。

藤井(關大) 6-3 5-7 中谷
 倉光(關大) 6-3 6-1 津田(明大)
 准優勝は最後の覇權を争ふ上に重大なる試合だけに、熱戦に熱を重ねて慶應の高橋村上組を破つた。

藤井(關大) 4-0 6-1 高橋
 倉光(關大) 6-1 3-0 村上(慶應)
 第一セットは關大組調子よく3-3と進んだが慶應組はその後よくポイントを取つて6-4でこのセットを取る。第二第三セットは藤井のネット、プレーよく極り倉光またレシーヴの好ショットを續

學生欄

千里山佛教青年會

汎太平洋佛青大會に代表を送る

佛教日本未層有の國際佛教徒を網羅せる第二回汎太平洋佛青大會は七月十八日より四日間新裝成れる東京築地本願寺に於て開催され太平洋を繞る十三ヶ國の青年佛教徒は國家、民族を異にするも佛陀の御名に於て一堂に相合し、國際平和への寄與と人類文化への貢獻を圖る事となつた。會衆一千餘名の面々は何れも感激に滿され輪奐を誇る殿堂は隅無く和氣に覆はれ恰も佛教に依る國際親善を表徴するかの如くだった。此の歴史的光景は全世界に放送され世界佛教徒を喜ばしめた事であらう。

本學より大阪學生佛青聯盟の代表として中村、渡邊、森の三君、傍聽者として三枝樹先生と木田君出席し、總會に次ぐ四日間の部會に、提出議案「中華民國當局に大會精神の正確なる認識を要望する件」以下五件に基き堂々と自論を主張し

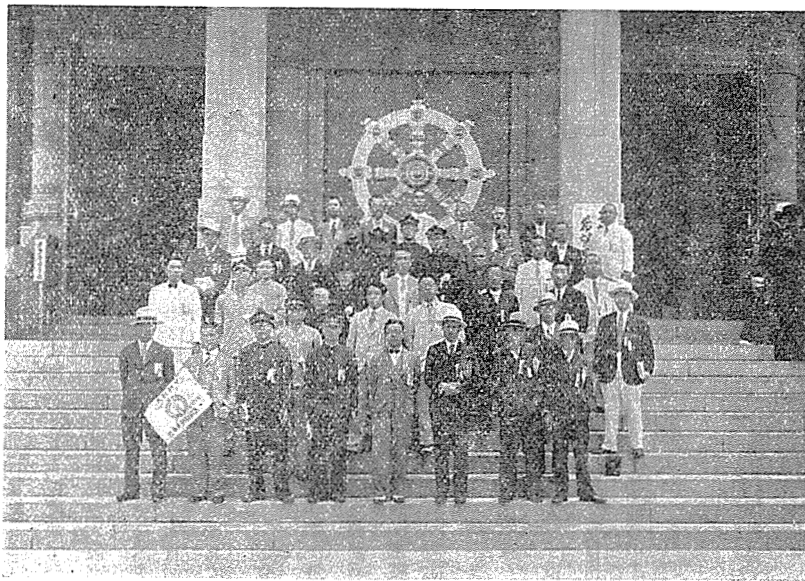
汎太平洋の全代表に關西大學の名を知らしめた。

京都大會 廿二、三兩日 比叡山琵琶湖を案内し岡崎公會堂に開會式を舉行。

大阪歡迎會 廿四日午前九時内外代表

五百名を驛頭に迎へ、中央公會堂にて歡迎午餐會を開催、市内を案内の後高野山

に行き一行を、難波驛迄送り高野山迄隨行、外國代表の案内並に市内案内に盡力せり。



(第二回汎太平洋青年大會大會代表隊) (東京築地本願寺に於て)

馬術部

(専門部第一部)

創立以來茲に早や四星霜、昨年九月關西學生乘馬聯盟及日本學生馬術協會に加入し其の第一回各校對抗トーナメントに於て輝しき戰蹟を残せし我が第一部馬術部の意氣物凄く部員一同一致團結以て我が馬術部の爲めに益々猛練習を重ねつゝあり。

四月十七日(火) 以後毎週火、木の放課後全部員大阪愛馬會に於て練習を開始す
五月廿日(日) 關西學生乘馬聯盟主催に依る第十回全國學生馬術大會が堺市金岡練兵場に於て開催され我が馬術部より井上主將以下七名の選手之に参加し優秀なる成績を擧ぐ。

卷乘りレー競技團休優勝

(井上晋、田中正豊、岩崎豊平)

翠平競技優勝者

A組 矢野利春 B組 田邊由治郎

六月十日(日) 第六回全日本學生馬術選手權大會大阪地方豫選及第五回三都學生馬術對抗競技關西側代表豫選大會が金岡練兵場に於て舉行され我が馬術部出場惜敗す。

七月一日(日) 神戸商大馬術部主催に依る西日本高商學生馬術大會が姫路騎兵隊馬場に於て開催され我が馬術部之に参加し名聲を發揮す。

淡路合縮練習

一、期 日 七月八日—十八日まで十日間

一、合宿所 淡路洲本町松榮館

一、練習馬 淡路洲本乗馬組合の貸馬
 一、練習所 淡路洲本競馬所馬場
 全部員参加し健全なる精神の修養に、
 健全なる身體の向上に努め意義深く合宿
 練習を終了せり。

語 学 部 (専門部第一部)

有意なる先輩諸兄を送り出すと共に新
 進の意氣に燃ゆる新部員を迎へ賀屋教授
 を部長に水谷教授を顧問に戴き富田委員
 長を初め二十餘名の各部員の不撓不屈の
 努力により我が語學部は益々内容の充實
 を期す、又本年からは關西英語聯盟に加
 入し對外的にも進出せんとす茲に今學期
 中の諸事業を記さん。

- (1) 毎週水曜日 富田委員長指導の基にテ
 キストを輪譯す
 (2) 毎週土曜日 賀屋教授のテキストの講
 義を傾聽す
 五月十一日 天五「サントス」に於て水
 谷教授御指導のもとにテーブルスピ
 ーチを開く
 五月十二日 天五「サントス」にて賀屋
 教授に列席の下に千里山英語會委員

と協議會を開く

五月十八日 天六「いろは」にて新入部
 員歡迎會を催す

六月二日 本學講堂に於て學内英語雄辯
 大會を開催す

六月十七日 フィンチャー氏と共に箕面
 方面へ會話旅行を行ふ

六月三十日 大毎ホールに於て大阪商大
 主催第二回全國高專英語雄辯大會に
 眞期君出場す

本年度新役員は左の如し

- 委員長 (商三) 富田 謙一
 會計係 (商二) 原 隆三
 記録係 (法三) 三木 勝
 " (商二) 神田 孝助
 庶務係 (法三) 竹内 正

千里山、卓球部

大阪學生卓球聯盟主催の昭和九年春季
 試合を六月十日大阪濟美第五校で舉行
 リーグ戦
 關西大學 三一二 大阪藥專
 關西大學 三一二 關大專一
 關西大學 二一三 大阪高醫

關西大學 三一二 關大專二

本大會に於て一部に昇進せんと各選手
 力闘せしが大阪高醫に惨敗し望み絶え來
 秋を待つことゝなつた。

尙六月十七日個人戦に於いて安井立雄
 はベストエイトに入賞す



京大卓球部主催第九回全國高專大會は
 京大學生集會所で七月十六日より舉行

第一次戦 不戦勝

第二次戦 (三點先取)

關西大學 一一三 大阪高醫

今春の大阪戦の復仇の意味で活躍せし
 が遂に敵し難く敗退す

尙、秋季戦目指して九月一日より九日
 まで靈地高野山上にて全部員の合宿練習
 を舉行

(第二六頁よりつゞく)

けてセット2-1と關大組リードす。第
 四セットに入るや慶應組はロツプの戦法
 を取り關大組の凡失でセットオール、第
 五セットは互にサーブミスを抑へて
 4-3と關大組リードし第八ゲームで慶
 應組の村上ダブルフォルトを三度繰返

して5-3と引離され關大組の勝となる

優勝試合は東商大の後藤、高田組と顔
 を合せて、東西強豪の繪巻を展開しつゝ
 遂に3-2で關大組の優勝するところと
 なつた。

藤井 (関大) 6-3 7-5 後藤 (東商大)
 倉光 6-3 3-6 高田

(第一セット) 東京大組堅くなつてミ
 ス多く直に5-0とリードされ、高田よ
 く打つて三ゲームをかへしたのみ。

(第二セット) 双方ともに堅くなり互
 にきまらず、後藤の凡失に關大組5-3
 とリードしたが商大二ゲームをとつて5
 -5とし、その後藤井の好エースに7-
 5にセットをとり二セットをリードす。

(第三セット、第四セット) 關大組氣
 をゆるしたに反し商大組はよく打つて二
 セットオールとなる。

(第五セット) 互に凡失をくりかへし
 2-2と進んだが、關大組ややくコン
 ビネーションよく、つゞく四ゲームをつ
 けてとり優勝す。

【新刊紹介】

櫻井匡君著

倫理學概論

新町徳之

曩に日本宗教史に關する著書二冊を公にせられた櫻井匡君は筆硯の幸いとも饒かに今こゝにまた「倫理學概論」を著はされたことは洵に慶賀に堪へない。本書は第一篇緒論、第二篇本論に分かれ第一編緒論は第一章倫理思想の發達、第二章倫理學研究の必要、第三章倫理學の定義、第四章倫理學の性質、第五章諸他科學との關係、第二編本論は第一章道德的行爲、第二章品性、第三章意志自由と必然論、第四章良心論、第五章道德標準論から成る。

「倫理學とは人間の行爲及び品性に對する道德判斷に關する研究をなすものである」(二〇頁、一五〇頁)との見解の下に緒論的諸問題を説明し、倫理學を以て精神科學・文學・規範科學であり更に倫理學には純理的方面もあり、實踐的應用的方面もあり、個人的社會的の兩方面を有す。科學であるとなし進んで倫理學と心理學・社會學・哲學・政治學・經濟學等の諸科學との關係を略述して第一編を終る。

第二編本論はいふまでもなく倫理學の中心問題を取

扱つたもので第一章に於て行爲の意義・範圍・要件・分析を敘し動機論と結果論に就き及ぼして兩論の批判を試み「動機の善が結果に於ても善となる事は望まじき事である。動機と結果とが相合する様にならなければならぬのである」(七六頁)といひて第二章では品性の意義・要素を敘して行爲と品性との相關性を説き第三章は最も難問題たる意志論であるが結局、意志自由の意義を闡明して「吾人の意志は自ら選擇して目的を定め、これによつて行動するので、これが意志の自由である」(一〇九頁)となし、自由論と必然論とは決して衝突するものではない。となし行爲が道理的責任を負はされる所以を説く。第四章では良心の意義・性質・作用・起源・發達を敘し良心は道德意識であるが知的・情的・意志的の三作用があり、それは生得的でもあり經驗的でもあつて意識の相當發達せる時期に於て發生すると云ふべきであるとなし進んで良心の發達に就き及ぼしてゐる。第五章道德標準論は著者の最も力を注がれたもので第一節法則標準説・第二節目的標準説に分ち、法則標準説を外部法則説・内部法則説(直覺説)の二つとし目的標準説を快樂説・合理説・人格説の三つとし、これ等の各學説を簡明に敘述し平易に批判しつゝその論證を鮮かに展開させて「吾人は統一ある自覺せる人間、而して理性も感情も自ら調和してゐる圓滿なる人格たる事を望むのである。而して

人格の完全なる發達を目的として理性をも感情をもその要素として考へるところの倫理學説は人格説である眞に人たることを望むのである。『人もしその生命を失はば何の價値あらんや』とナザレのイエスが云つてゐる。生命とは人格價値を指すものであらう。人間の人間としての價値は實にその人格に存する。吾人の求めてやまず、追ひ求めてやまざるものは人格の完成である。人格の完成こそ人間の最高目的であるべきであると信ずる」(二八七頁—二八八頁)と結んでゐる。

結局、本書は著者の教養と體驗とから出來上つたもので、別に人を驚かす底の新説創見もないが、併しながら倫理學上の一般的概念を把握して倫理道德上の純粹批判の基礎工作となり得る點が存在理由になると私は信ずる。

文檢受驗者や教育家の參考に資せんがために記述したもので高等専門學校の教科書、入門書として適當なるものである」(序)との著者の言葉も亦この意に他ならない。(東京隆章閣發行、定價金貳圓參拾錢)

就職に關する心得

本文は専門部就職委員會より第一部學生に配布されたものなるも、就職せんとする一般學生の好参考と史料せるを以て茲に載録する。

經濟界の情勢は二、三年前に比し稍々好轉せる傾向あるも企業家は警戒を嚴にし既設事業經營者は過去の苦き經驗に顧みて新規社員採用は之を最少限に止め他日不景氣の襲來に備へつゝあるを以て明春三月に於ける卒業生の就職も亦頗る困難なるべきことは今より豫想に難からざる所なり。學校當局に於ては過去の實験と其の結果とに鑑み最善の努力を拂ひ卒業生をして成るべく多數就職せしめんことを期しつゝあるも全國各學校卒業生多數の競争激甚なる就職戰線に伍して希望通りの結果を收むることは難事なるを以て、生徒は學校當局の斡旋にのみ依頼することなく、生徒自身が知己縁故等を辿り非常なる意氣と熱とを以て積極進取の猛運動をなし以て各自其就職口を開拓すること緊要なり。

現今卒業生採用の際は一、般に採用試験（採用先に必要なる學科及人物考査）を行ひ採否を決定せられることとなり居るにより、該試験に合格するにあらざれば採用の榮を得ざることを覺悟せざるべからず。故に採用試験受験に對する準備を豫め心掛け置くこと必要なり而して學校の斡旋によると生徒各自の運動によるとを問はず就職に關し生徒の心得べき事項概ね左の如し。

- 一、履歷書 直感的に其の人の性質等を推斷し採否銓衡上の重要資料となることあるを以て毛筆にて筆蹟に注意し出來得る限り丁寧に書くこと
- 一、現住所移轉届 就職斡旋上特に必要なるを以て卒業豫定名簿調製後の轉届は必ず速に學校當局に届出ること
- 一、準備書類（履歷書、寫真、戶籍抄本、希望申告書等）は指定の通り必ず學校

當局に提出し置くこと

一、採用考査を受くる際は特に左の諸件に注意すること

(一) 態度は眞摯にして紳士的なるべきこと

(二) 言語は快活明瞭にして臆せざること

(三) 舉動は澹潤たる元氣を必要とするも粗暴に亘らざること

(四) 禮儀を正し言語の應答に注意し苟も不遜の言行あるべからざること

(五) 成るべく制服を着用し不體裁の服裝をなさざること

(六) 頭髮は適當に刈り異様の容貌をなさざること

一、採用の申込みをなす場合は其の會社商店等の組織内容に關する常識を收得し置くこと

一、採用試験には社會的諸事情、時事問題等を試問せらるゝこと多きを以て之等の常識を養ふことに日常注意し居ること

一、學校に於て涵養せる堅實高尚なる精神を發揮することは必要なるも學識を自慢するが如き態度を慎むこと

一、採用者と面會の場合長時間待たせられても決して不平の口吻を漏さざること

一、學校に對して先方より採用申込みありたる場合被推薦者の人選は主事に一任すること

一、學校の斡旋によると否とを問はず採用略ね内定せる時は本人より其旨を速に學校當局に申告すること

一、採用試験に應じたるものは採否如何に拘はらず速に其狀況を學校當局に申告すること

一、銀行、會社、商店等に就職者は最初珠算、寫字が最も必要なるにより餘暇を利用して珠算の練習及び習字等を行ひ就職後困らざるやう留意すること

研究論集發刊

曩に學報誌上豫報の如く關西大學研究論集はその第一號を來る十月一日發行することになつた。第一號執筆者は別記の如く仁保學長、岩崎、大山、河村(信)、片山、加藤、武内、田邊、中谷、中村(良)、内多、森下の諸教授にて三百三十餘頁の豫定である。

而して同誌は教授、助教授より成る關西大學學會の編輯發行にかゝるものにして教授、助教授諸氏の研究發表機關として五月、十一月の年二回の發行なるも本年度に限り第一號を十月一日、第二號を二月一日に發行する。

かくて純粹の研究成果たる論文と學内並に校友、學生の諸事の報道とは別個の機關をもつことになり、躍進關大の年來の希望は茲に成就するに至つた。

定價一部一圓、發賣所—大阪市東淀川區長柄中道、甲文堂書店に申込まれたし。

編輯餘錄

▼新涼と共に學園も漸く賑かとなつた、永い休暇中に培はれた努力の實る秋だ其諸成果は括目して待つべきである。大學本館の新築工事も其後著しく進捗し、その偉容を示すに至るも近き日ならん。

▼本號には有職故實の泰斗江馬講師より「廣告術の變遷」なる原稿を頂く事になりました。宣傳廣告萬能の現代に於て廣告術變遷の跡をたどるのも面白かるべく好個の讀物と信ずる。

▼河村教授の滿洲看聞記は科學者の目に映じた滿洲を例のユーモア交りの筆致でものされたもの、昨年九月號の大山教授の滿洲日記と併せ讀まれば興味津々たるものあらん。

▼海外學界消息として赤羽教授の「シニパン教授とフアツシズム」、越智校友の「丁抹法學界の近業」なる寄稿を得ました。

▼校友のプロファイルと題して本學のつ異色の校友を逐次紹介する豫定である。本號には若くして洋書壇の重鎮たる

鳥海青兒氏を以て見えました。

▼本號には校友欄並に學生欄の投稿は暑中休暇中にて甚だ尠く一抹の淋しさを覺える。時や正に秋、次號は活潑なる活躍にて紙面をうづめられん事を期待する。毎月二十八日締切なるを以て期日に遅れぬ様特に依頼します。

▼就職に關する心得は近來就職難の聲市井に満ちてかまびすしき折柄、學生諸君には裨益する處多かるべきを信じ採録する事に致しました、簡なれども明、學生諸君の坐右の銘として敢て薦むる所以である。

▼スポーツ關大は毎號橋校友より熱心に寄稿願つてゐます。吾等が母校の爲にその死力を盡くして虹の如き氣を吐く各選手の勞を思ふ時、遠く母校の地を離れて異境の空に、母校の對外的な一大躍進を省みる時、恐らく校友と學友たるを問はず如何にその胸の血潮の高鳴る事よ。

▼此度學報局員として安井章吾君を迎へることになりました。同君は昭和四年本學文學科の出身にて、明誠誠實の人今後の活躍を期待されてゐます。

急告

目下、校友會員名簿編纂中に就き、職業並に住所移動の未通知者は、來る十月十五日迄に、學報局宛御通知相成度候

大正十一年六月十五日創刊
昭和九年九月十三日印刷
昭和九年九月十五日發行

不許複製
編輯兼發行人 神屋敷民藏
印刷者 谷口春雄
印刷所 谷口印刷所
發行所 關西大學學報局

天六學舎 關西大學
電話 堀川一〇三九
攝津大阪二二七五番
千里山學舎 關西大學
大阪市外千里山
電話 吹田一三三

大阪商科大学教授
經濟學博士 田崎仁義著

(内容見本進呈)

甲文堂圖書目錄
御申越次第進呈

最新刊

一般經濟史

原始經濟時代

菊判上製 四二〇頁
定價 參圓
送料 貳拾貳錢

本書は原始的の人民の經濟について廣く資料を世界に求めて比較・綜合・歸納の結果に成れる一般史的研究で、皇道・王道及び霸道等の成立根源を人類原始の經濟史上より科學的に闡明せるが如きは本書のみの有する一大特色である。而も資料の豊富、觀察の該博なる、論究の徹底、批判の明確なる、又隨所に其の獨創的見解を披瀝して前人未發の境地を拓き、之を筆するに縱橫暢達の文章を以てする、實に學界稀に見る所で、斯學同好の士は言ふに及ばず、一般人士も齊しく一讀を要する快著である。近來の偉業として敢へて大方の必備を望む。

最新刊

關西大學講師
龍野健次郎譯

マックス・ヴェンチャ
倫理學史要

菊判 二三〇頁
定價 一・八〇
送料 一四

西洋哲學思想史を倫理的側面から簡明平易に展開せしめたもの。譯文また極めて明解で、同好者絶好の趣味書

關西大學講師
宇治伊之助譯

ゾムバルト
資本主義の將來

四六判 八〇頁
定價 三・三五
送料 〇四

ゾムバルト博士が最近抱擁し且屢々諸所で論述した見解を簡潔に纏め上げたもの一般人士に極めて至便な譯書

甲文堂書店

發行所
大阪市東區島町三丁目七番
大阪市住吉區杉本町三番
長崎區本町三番
關西區大商町三番
前大關前

振替
大阪六二五〇二番
東京七三八一八番